

**ANALISIS *JUKUNEN RIKON* PADA MASYARAKAT
JEPANG**

日本社会における熟年離婚の分析

SKRIPSI

Diajukan untuk memenuhi salah satu syarat menempuh ujian sarjana sastra Jepang
pada Program Studi Sastra Jepang STBA JIA Bekasi



RETNO NINGSIH
43131.520134.087

**PROGRAM STUDI SASTRA JEPANG
SEKOLAH TINGGI BAHASA ASING JIA
BEKASI
2018**

LEMBAR PERSETUJUAN

ANALISIS *JUKUNEN RIKON* PADA MASYARAKAT JEPANG

(日本社会における熟年離婚の分析)

Retno Ningsih
43131.520134.087

Disetujui oleh :

Pembimbing I



Aam Hamidah, M.Pd.

NIDN. 420087003

Pembimbing II



Ahmad Kurnia, S. Pd, M. M.

NIDN. 426026902

Ketua STBA JIA



Drs. H. Sudjianto, M.Hum.

NIP. 195906051985031004

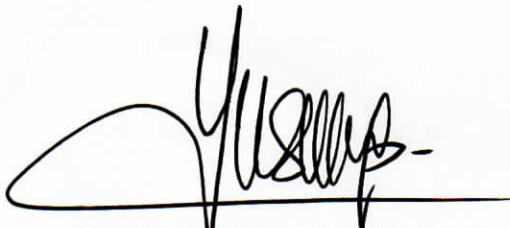


LEMBAR PENGESAHAN

Nama : Retno Ningsih
NomorIndukMahasiswa : 43131.520144.089
Judul : ANALISIS *JUKUNEN RIKON* PADA
MASYARAKAT JEPANG (日本社会における熟
年離婚の分析)

Disahkan Oleh :

Penguji I



Yusnida Eka Puteri, S. S., S. Mi.

NIDN. 412067304

Penguji II



Siti Nur Isnaini, S. S., M. Pd.

NIDN. 431088305

Ketua STBA JIA



Drs. H. Sudjianto, M.Hum

NIP. 195906051985031004



SURAT KETERANGAN LAYAK UJIAN SIDANG

Saya pembimbing I skripsi, dengan ini menyatakan bahwa mahasiswa berikut :

Nama : Retno Ningsih

NomorIndukMahasiswa : 43131.520134.087

Judul : *Analisis Jukunen Rikon* Pada Masyarakat Jepang

Sudah layak untuk mengikuti ujian sidang yang akan diselenggarakan pada tanggal 10-11 Agustus 2018, karena sudah menyelesaikan masa bimbingan sebanyak 10 kali tatap muka dan mengikuti konsultasi-konsultasi lainnya. Selanjutnya untuk kesempurnaan hasil karya tulis yang sudah dibuat, maka saya menyerahkan sepenuhnya kepada Tim Penguji Sidang Skripsi untuk menguji hasil karya dari mahasiswa tersebut.

Bekasi, 01 Agustus 2018

Pembimbing I



Aam Hamidah, M. Pd.

NIDN. 420087003

SURAT KETERANGAN LAYAK UJIAN SIDANG

Saya pembimbing I skripsi, dengan ini menyatakan bahwa mahasiswa berikut :

Nama : Retno Ningsih

NomorIndukMahasiswa : 43131.520134.087

Judul : *Analisis Jukunen Rikon* Pada Masyarakat Jepang

Sudah layak untuk mengikuti ujian sidang yang akan diselenggarakan pada tanggal 10-11 Agustus 2018, karena sudah menyelesaikan masa bimbingan sebanyak 10 kali tatap muka dan mengikuti konsultasi-konsultasi lainnya. Selanjutnya untuk kesempurnaan hasil karya tulis yang sudah dibuat, maka saya menyerahkan sepenuhnya kepada Tim Penguji Sidang Skripsi untuk menguji hasil karya dari mahasiswa tersebut.

Bekasi, 01 Agustus 2018

Pembimbing II



Ahmad Kurnia, S. Pd, M. M.

NIDN. 426026902

LEMBAR PERNYATAAN KEASLIAN SKRIPSI

Nama : Retno Ningsih
NomorIndukMahasiswa : 43131.520134.087
Jurusan : BahasadanSastraJepang
Judul : ANALISIS *JUKUNEN RIKON* PADA
MASYARAKAT JEPANG

Dengan ini saya menyatakan bahwa skripsi yang saya buat adalah asli bukan plagiasi atau saduran. Apabila terdapat kecurangan dalam penelitian ini, maka akan menjadi tanggung jawab saya di kemudian hari.



Bekasi, 01 Agustus 2018

Retno Ningsih

NIM. 43131.520134.087

MOTTO DAN PERSEMBAHAN

MOTTO :

Better to feel how hard education is at this time rather than feel the bitterness of stupidity later.

Persembahan :

Skripsi ini saya persembahkan untuk kedua orang tua saya, kepada kakak dan adik saya yang saya cintai yang sudah memberikan dukungan, doa dan memberikan koreksi terhadap diri saya untuk selalu melakukan yang terbaik.

ANALISIS JUKUNEN RIKON PADA MASYARAKAT JEPANG

RETNO NINGSIH

431.31520134.087

STBA JIA BEKASI

2017

ABSTRACK

Negara Jepang adalah Negara maju yang tidak terlepas dari berbagai masalah sosial. Tidak hanya di Indonesia, Jepang juga mempunyai permasalahan tersendiri sesuai dengan karakter masyarakatnya. Salah satu masalah sosial yang banyak diberitakan adalah tentang perceraian yang terjadi oleh pasangan yang telah menikah selama dua puluh tahun atau lebih yaitu disebut sebagai *jukunen rikon*. Menurut Kementerian Kesehatan, Perburuhan, dan Kesejahteraan Masyarakat, kasus *jukunen rikon* mencapai 37.805 kasus dari total seluruh perceraian yang ada di Jepang pada era *Heisei* 28 yaitu tahun 2017. Penelitian ini dilakukan untuk mengetahui bagaimana faktor-faktor yang dapat mempengaruhi *jukunen rikon* dan mengetahui gambaran *jukunen rikon* yang terjadi di zaman *Hesei*. Metode ini bersifat deskriptif. Penulis menggunakan beberapa teori yang digunakan sebagai penelitian salah satunya adalah Fumie Kumagai. Hasil penelitian adalah gambaran kasus *jukunen rikon* dan analisa dari kasus-kasus *jukunen rikon*.

Kata kunci : *jukunen rikon*, Masyarakat Jepang, Analisis kasus

日本社会における熟年離婚の分析抽象

RETNO NINGSIH

431.31520134.087

STBA JIA BEKASI

2017

ABSTRACT

国家には、様々な社会問題があるということです。インドネシアだけでなく、日本も社会の特集と関する問題もはっせいしている。報告された多くの社会問題の一つは、熟年と呼ばれている 20 年以上の結婚している夫妻によって起こった別れ話だった離婚。厚生労働省の厚生労働組合によると、平成 28 年の時代の 2017 に日本に事例熟年離婚は、存在した全離婚事件のうち 37.805 がある。本研究では、熟年離婚に影響を及ぼしうる要因と、平成期にどのような熟年離婚を知るために実施された。本研究方法は、記述的である。著者は、様々な理論を使用している、例えば熊谷文枝さん。研究は、事例熟年離婚と事例の分析熟年離婚の説明である。

キーワード：熟年離婚，日本社会，事例分析

概要

第 I 章

はじめに

A. 背景

実際の問題として成熟した結婚の時代に離婚が、妙に十分な熟年離婚は存在する。その後、厚生労働省の大臣が 2016 で撮影したデータから、読売オンラインがアップロードしたオンラインメディアが、夫婦ペアによる離婚が約 11000 件あったと明記した。30 年以上同棲している。著者は、熟年離婚に影響を与える要因となったもののいくつかの存在に興味を持っている。「日本における近代化と離婚」における向井 Motonabu (2004) によると、日本社会は、それを合理的に考えている個人や個人の幸福を追求する傾向がある。離婚の発生に影響を与える要因の 1 つである。それは日本社会との単一の実体であるため、著者らはタイトルを選択したように、「熟年離婚分析」というタイトルを指定するように、生命がどのように相互接続されるかについて説明する。

B. 問題の定式化

1. 熟年離婚平成期日本社会における事例の記述
2. 日本社会における熟年離婚に影響を及ぼす要因

3. 著者は、書籍、新聞、雑誌、ブログ、フォーラム、メディアの両方 FIS と非物理 IK 平成時代に見つかった熟年離婚ケースを調べる。

第 II 章

A. 日本社会

日本社会は均質で、集団に住んでいて、個人の利益よりも利益団体の方が良いと考えている人を含んでいる社会である。書面の禁止はありませんが、国民の意識のシステムは、それを設定することができた。

B. 平成期日本の家族

www.britannica.com によれば、Hesei 時代は、昭和の時に君臨した昭和天皇すなわち父を取り替えるために 1989 に皇帝になった時代である。

柏木恵子 (1998:5) は、ほとんどの学者は、それが考慮されるべきであるという感情と信念を持っている個々のそのままよりも子供を生むための女性のための場所として日本を見ていると主張子育てを子供のパフォーマーにする能力は別として。もちろん、それは皮肉なときに実際に女性は確かにより多くの注意を与えられているが、唯一の国は、出生率の低下を懸念。これは実際に不便の感覚があると徴候として、造られた家族の真中の女性役立つことができる。

C. 平成時代の離婚

離婚のレベルはまた結婚の数の減少のためにその可能性を下に乘る傾向にある。しかし、その後、2000年に日本での離婚率は、このように増加した。しかしそれは後に離婚率も低下する可能性があります。小野宏は日本での離婚 (2006:221) で、今日の日本社会で結婚・離婚というパターンがあると述べた。2003では、戦後から研究すれば日本で最も高い離婚率。日本社会動向学会このように見えるのは、調和、忠実さ、長期的なコミットメント日本における亡き人生離婚と題した熊谷文枝再考: 老齡年金制度部門の効果 20年かけて結婚した夫婦で日本で離婚が起きていると説明ントを理解することが知られている日本の人々の行動に沿ってではない。日本には協議離婚、調停離婚、審判離婚、裁判離婚がある。日本における離婚の特徴は婚姻期間、親権、一緒に信頼をの離婚である。

D. 熟年離婚

アリソンミーガンアレクセイ (2007:172) は、熟年は、中年と高齢者の年齢やインドネシアの言語の間の範囲は約 45 歳以上に相当する高齢者と呼ばれて説明している。熟年離婚は、第二次世界大戦後の近代化の影響である。戦争の後、世界は世代として知られている世代は、多くの古い時代に離婚を行うと考えられて生まれた。熟年離婚は、「濡落ち葉離婚」としても知られ、流されたときに夫が濡れた葉として見立てたので離婚する。だから、ここで濡れた葉の意

味は、それが流されることは困難であるため、非常に厄介なものである。女性のこれらの手段は、夫はすでに夜を考慮し、1つのトラブルとして家の中で時間を費やして、有用ではない。それは該当だった記述するためにも、用語は、すでに大きすぎる廃棄物を意味する濡 *ochiba* すなわち 粗大ごみから浮上した。さらに離婚退職給付を意味する「たいしょく・キン離婚」という言葉もある (熊谷ふみ, 2015 年: 123)

熟年離婚に影響を与える要因は次のとおりである。

1. 夫婦の態度に対して満足していない
2. 子供は既に独立している
3. 上記のような見解と妻の自立について
4. 高い寿命
5. 共同財産の分割
6. 高齢者の世話をするのにうんざり

第 III 章

A. 研究方法

本研究で野著者は定性的な記述方法をよいしている。定性的な記述データを生成し、研究手順で例えば、言葉です。著者は、この研究を行こうに言った手順は次の党利である

1. 日本の社会問題の情報についてさがしている
2. 研究目標を探している
3. 本やインターネットで探している
4. データのぶんせき
5. 推論する

第IV章

A. 説明の熟年離婚

それは、1947 と 1949 と平成期の間に生まれた団塊の世代に最も顕著な秋熟年離婚ケースの増加とすることができる結婚の年齢は結婚20年を超えている。(熊谷、2015年: 129)。確かに平成の初めの頃はこの瞬間ほど高くはない。しかし1つは熟年離婚がその時代に活気を始めたと言うかもしれない。

ケース熟年離婚は1990半ばに著しく始めた。結婚の年齢との離婚の例の数は1975の平成の時間の前に20年以上に達した6810の場合またはすべてのタイプの離婚の場合の合計の5.7%。しかし、2002の統計では、離婚例の数が大幅に15.7%増加する、その後、年2010で15.9%になる。日本のオンライン記事によると、平成28年高齢者の離婚事件が起こった離婚の全体の金額の17%に達する。そして平成2平成20、25年以上同棲しているカップルが20年の結婚生活でせいぜい離婚したと見られる。

より多くの熟年離婚は、訴えた妻によって始まる。なぜ夫の方が稀なのか熟年離婚は中年以上の男性が熟年時代に離婚するほど希少な妻に頼るからである(吉田淳 2014:2)。夫の年金基金の欠点や長所にもかかわらず、少なくとも妻は夫を得た年金基金に加入する権利がある。実際に夫の給料(2014:3)から頼らざるを得ないので、退職後離婚した方が楽でしょう。離婚は、しばしば女性によって開始される。これは、日本最高裁判所の事務局によって行われた調査に表示されます 2013年には、離婚のイニシアチブは、2017年までに女性が先行して72.4%に到達し、大谷によると、それは可能性が継続されます後日増額。

B. 熟年離婚の分析

研究した要因によると、最も影響を与える熟年離婚は、彼女の夫に失望した彼の妻によってより感じた文字のペアに対して満足していない感覚である。その仕事を優先し続けている夫の考え方を持つ妻の多くは、彼らは珍しい感情的な関係のカップルが通信し、伸縮させる。また、浮気をしていることが判明する夫も多いし、夫は妻を助けたことはないし、まるで妻が仕事をする必要がある家事をしているかのようなものである。しかし一方で、何人かの妻は子供の方に妻がより集中していることを描写したので離婚されて得るために育つ子供を待たなければならなかった。子供がいた妻のほとんどは、平均

は経済的な理由で彼の意思を遅らせる。しかし、その中核には、主な理由は、新しいカップルの態度は、その他の要因と考えられていた。

第 V 章

A. 結論

より多くの熟年離婚は訴えた妻によって開始される。なぜ夫の方が稀なのか熟年離婚は、男性の中年と高齢者が妻に頼るからである。

平成 28 ~ 平成 27 年の時代、熟年を行うカップルは二十歳から二十歳までの結婚年齢によって支配に離婚。

上記のデータの結果によると、平成の時代の熟年離婚は、熟年離婚を開始した当事者として女性を記述し、少なくとも、彼らの結婚年齢は 20 年であると結論付けることができる。でも、上記のケースからすると、たかだか 30 年の結婚年齢でこうして離婚した夫婦の大半が上向き。離婚したカップルの大半は、給与や給与の男と彼の給料男のシステムで動作する夫とカップルによって支配これはかなり忙しいので、めったに彼の妻と通信する典型的な夫である。

C. 提案

研究者にとっては、次の研究者にとって期待されている調査は、まだ非常に限られているので、テーマ熟年離婚の議論の進展があるように、この調査を続けることができる。

KATA PENGANTAR

Puji dan syukur penulis panjatkan kepada Allah S. W. T. atas berkah dan karunia-Nya sehingga peneliti dapat menyelesaikan skripsi yang berjudul “Analisis *Jukunen Rikon* Terhadap Masyarakat Jepang”. Tujuan penulisan tugas akhir ini adalah untuk memenuhi salah satu syarat menempuh ujian sarjana pada jurusan Bahasa dan Sastra Jepang STBA JIA Bekasi.

Banyak sekali hambatan yang penulis temui dalam skripsi ini namun berkat dorongan semangat dan bantuan dari berbagai pihak, akhirnya peneliti dapat menyelesaikan skripsi ini dengan tepat waktu. Olehkarena itu, pada kesempatan ini peneliti ingin mengucapkan terima kasih yang sebesar-besarnya kepada :

1. Drs. H. Sudjianto, M.Hum, selaku Ketua STBA JIA Bekasi
2. Yusnida Eka Putri, S.S., M.Si. selaku pembantu Umum Ketua I STBA JIA Bekasi.
3. Dr. Rainhard Oliver, S.S., M.Pd selaku KAPRODI S1 Jurusan Bahasa Jepang STBA JIA Bekasi.
4. Aam Hamidah, M. Pd. selaku pembimbing I
5. Ahmad Kurnia, S. Pd., M. M. selaku pembimbing
6. Dosen-dosen pengajar Sastra Jepang yang telah mewariskan ilmunya kepada penulis selama menuntut ilmu di STBA JIA Bekasi dan telah memberikan banyak bantuan dan dukungan dalam penyusunan skripsi ini.
7. Bapak dan Ibu staf tata usaha STBA JIA Bekasi

8. Bapak Tugiyono dan Ibu Janiyah serta kakak-kakak, adik, dan sepupu selaku keluarga penulis yang selalu memberikan kasih sayang, memberikan dukungan, senantiasa mendo'akan serta sabar dalam menghadapi penulis.
9. Untuk teman-teman kelas A yang selalu membuat ceria, bersama-sama melewati suka dan duka selama perkuliahan dan saling memberikan semangat.
10. Untuk semua sahabat-sahabat dekat di luar STBA JIA Bekasi dan pihak-pihak yang namanya tidak dapat penulis cantumkan satu per satu yang telah memberikan do'a, dukungan, dan bantuan kepada peneliti demi kelancaran dalam menyelesaikan skripsi ini.
11. Untuk penemu Indomie Soto dan Indomie goreng yang menyelamatkan daya dan upaya penulis di malam hari.

Terima kasih banyak atas semua bantuan yang peneliti terima selama penyusunan skripsi ini, semoga Allah SWT membalas segala kebaikan yang telah penulis terima. Harapan penulis semoga skripsi ini dapat bermanfaat bagi penulis sendiri dan bagi pembaca.

Bekasi, 01 Agustus 2018

Peneliti

DAFTAR ISI

LEMBAR JUDUL

LEMBAR PERSETUJUAN	ii
LEMBAR PENGESAHAN	iii
SURAT KETERANGAN LAYAK UJIAN SIDANG	iv
LEMBAR PERNYATAAN KEASLIAN SKRIPSI	vi
MOTTO DAN PERSEMBAHAN.....	vii
ABSTRAK	viii
GAIYOU	x
KATA PENGANTAR.....	ix
DAFTAR ISI	xi
DAFTAR TABEL	xiv

BAB I PENDAHULUAN..... 1

A. Latar Belakang	1
B. Rumusan dan Fokus Masalah.....	6
1. Rumusan Masalah	6
2. Fokus Masalah	6
C. Tujuan dan Manfaat Penelitian	6
1. Tujuan Penelitian	6
2. Manfaat Penelitian	7
D. Definisi Operasional.....	7
E. Sistematika Penelitian	8

BAB II LANDASAN TEORI 10

A. Masyarakat Jepang	10
----------------------------	----

B. Keluarga Jepang Zaman <i>Heisei</i>	17
C. Perceraian di Jepang Zaman <i>Heisei</i>	21
1. Perkembangan Perceraian di Jepang Zaman <i>Heisei</i>	21
2. Jenis-Jenis Perceraian Menurut Hukum Jepang.....	24
3. Karakteristik Perceraian Yang Mencolok di Jepang.....	25
4. Istilah Perceraian	26
D. Perceraian Lanjut Usia (<i>Jukunen Rikon</i>)	28
1. Pengertian <i>Jukunen Rikon</i>	38
2. Faktor-Faktor <i>Jukunen Rikon</i>	31
E. Penelitian Yang Relevan	41
BAB III METODOLOGI PENELITIAN	42
A. Metode Penelitian.....	42
1. Waktu dan Tempat Penelitian	43
2. Jenis Penelitian.....	44
B. Prosedur Penelitian.....	45
1. Tahap Awal	45
2. Tahap Pelaksanaan	45
3. Tahap Penyelesaian.....	45
C. Teknik Pengumpulan Data	45
D. Teknik Analisis Data	46
E. Sumber Data.....	47
BAB IV ANALISIS DATA.....	48
A. Gambaran <i>Jukunen Rikon</i>	48
1. Mulai Populer di Zaman <i>Heisei</i>	48
2. Lebih Banyak Wanita Sebagai Penggugat	50
B. Paparan Data	52
C. Analisis Data Faktor-Faktor <i>Jukunen Rikon</i>	55
D. Interpretasi Data	93

BAB V KESIMPULAN DAN SARAN	94
A. Kesimpulan.....	95
B. Saran.....	96
DAFTAR ACUAN.....	xv
RIWAYAT HIDUP PENULIS.....	
LAMPIRAN	

DAFTAR TABEL

Tabel 1 Data <i>Jukunen Rikon</i>	49
Tabel 2 Periode <i>Jukunen Rikon</i>	50
Tabel 3 Paparan Data	51

BAB I

PENDAHULUAN

A. Latar Belakang

Perkawinan merupakan suatu lembaga yang sangat populer dalam masyarakat tetapi juga bukan suatu lembaga yang tahan uji, merupakan teori menurut Golberg (2018). Ketika sebuah perkawinan tidak mampu bertahan maka perceraian akan terjadi. Perceraian tidak hanya terjadi terhadap pasangan muda atau dengan rentang perkawinan yang singkat namun juga terjadi pada usia dewasa pada sebuah perkawinan. Perceraian yang terjadi terhadap pasangan lanjut usia ini disebut sebagai *Jukunen Rikon* (熟年離婚). *Jukunen rikon* seharusnya tidak terjadi mengingat usia pasangan yang sudah sama-sama dewasa dan berpengalaman dalam membina hubungan pernikahan yang cukup lama. Seharusnya dengan rentang waktu pernikahan yang tidak singkat mampu membuat pasangan saling memahami keadaan dan karakter masing-masing tapi pada kenyataannya hal tersebut tidak menghalangi beberapa pasangan lanjut usia di Jepang untuk bercerai.

Jukunen Rikon dalam *Nihongo Daijiten* terdiri dari kanji 離婚 yang berarti usia yang matang dan 離婚 berarti perceraian. Allison Megan Alexy (2007) menjelaskan *jukunen* merupakan rentang antara umur paruh baya dan renta atau dalam bahasa Indonesia disebut lanjut usia. *Jukunen rikon* merupakan bahasan yang menarik mengingat

pasangan yang bercerai justru merupakan pasangan yang sudah berumah tangga selama lebih dari dua puluh tahun. Dalam hal ini selain umur pasangan yang sudah lanjut, sebuah perceraian bisa dikategorikan *jukunen rikon* apabila usia pernikahan paling sedikit adalah selama dua puluh tahun. Sebagai satu contoh kasus yang tidak termasuk *jukunen rikon* misalnya ketika seseorang menikah pada umur 50 tahun tetapi bercerai setelah sepuluh tahun menikah maka tidak bisa dikategorikan ke dalam *jukunen rikon*.

Menurut Fumie Kumagai dalam jurnalnya yang berjudul *Late Life Divorce in Japan Revisited: Effect of The Old-Age Pension Divisin Scheme* menjelaskan bahwa perceraian yang terjadi di Jepang pada pasangan yang menikah lebih dari dua puluh tahun, telah menjadi semakin umum sejak tahun 1990-an. Dari data yang diambil dari Statistic Bureau 2012 ; IPSS 2004-2012, pada penelitian pertama di tahun 2006, kasus perceraian lanjut usia sangat meningkat selama tiga puluh tahun terakhir yang diakibatkan oleh populasi *baby boomer* yang lahir setelah perang dunia dunia yaitu antara tahun 1947 dan 1949. Jumlah kasus perceraian dengan usia pernikahan lebih dari dua puluh tahun pada tahun 1975 mencapai 6.810 kasus atau 5,7% dari total seluruh jenis kasus perceraian. Pada tahun 2002 statistik angka kasus perceraian meningkat secara signifikan menjadi 15,7 % lalu pada tahun 2010 menjadi 15,9%. Dengan angka yang kurang lebih 15% tersebut, penulis berasumsi bahwa *jukunen rikon* ini bisa dikatakan sebagai fenomena budaya.

Jukunen rikon merupakan sesuatu yang tidak lagi asing bagi masyarakat Jepang. Bahkan ada sebuah drama Jepang yang mengangkat tentang perceraian lanjut usia dengan judul *Jukunen Rikon* pada tahun 2005 dan sebuah film berjudul *Wonderful Family* pada tahun 2016 yang ternyata keduanya sukses di pasaran dengan nilai penjualan dan rating yang bagus. Kedua drama televisi ini sama-sama menceritakan tentang seorang suami yang digugat cerai oleh istrinya setelah hari pensiunnya tiba.

Penulis tertarik bahwa ada beberapa hal yang menjadi factor-faktor yang mempengaruhi *jukunen rikon*. Motonabu Mukai dalam *Moderniation and Divorce in Japan* menyatakan bahwa sistem ekonomi di Jepang pada masa setelah Perang Dunia II mengalami peningkatan. Setelah perang dunia masyarakat Jepang cenderung lebih individualistik yaitu mengejar kebahagiaan individu mereka berdasarkan pilihan yang rasional. *Jukunen Rikon* semakin Nampak setelah diberlakukannya sistem dana pensiun bagi warga Jepang. Sistem dana pensiun ini masih diberlakukan di Negara Jepang hanya saja dengan sistem yang sempat berubah. Contohnya pada tahun 2007 undang-undang perpajakan tahun 2007 untuk pasangan cerai akan diberlakukan pembagian pensiun untuk pasangannya. Menurut Kementerian Kesehatan, Tenaga Kerja dan Kesejahteraan Sosial tahun 2008, sasaran utama dari dana pension atau *kokumin nenkin* adalah seluruh warga berusia antara 20—60 tahun yang tinggal di Jepang. Keikutsertaan orang-orang yang tinggal di Jepang yang berusia di antara 20—60 tahun dalam *kokumin nenkin* sangat dianjurkan

sehingga dapat dipastikan seluruh masyarakat Jepang yang berusia 20—60 tahun terdaftar sebagai peserta *kokumin nenkin*. Hal ini diatur dalam Peraturan No. 141 Tahun 1959 tentang Dana Pensiun Nasional. Pada tahun 2008 saja terdapat sekitar 69 juta orang yang terdaftar sebagai peserta *kokumin nenkin*. Tidak hanya tentang dana pensiun, masalah ekonomi yang sedang menurun juga dianggap mampu mempengaruhi perceraian oleh konflik-konflik yang terjadi di dalam keluarga dalam mengatur strategi anggaran. *Jukunen rikon* terdapat beberapa istilah dalam bahasa Inggris maupun Jepang yang mampu mencerminkan penyebabnya. Istilah *jukunen rikon* dalam bahasa Jepang menurut Iwao (2003) juga bisa disebut sebagai “nure ochiba rikon” yaitu *divorce due to husbands being wet leaves that stick around even after sweeping* atau bisa diartikan bahwa suami seperti daun basah yang menempel setelah menyapu. Daun basah adalah penggambaran untuk sesuatu yang menempel dimana-mana dan menyita waktu ketika harus melepasnya saat sedang menyapu maka daun basah ini adalah gambaran dari sesuatu yang mengganggu. Kondisi ini ada disaat ketika suami sudah pensiun jadi suami terlihat tidak berguna. Bisa dikatakan hal ini merupakan ketidakcocokan terhadap karakter suami. Kumagai membahas kekeliruan pandangan yang melihat fenomena *jukunen rikon* sebagai wajah sebenarnya dari lembaga perceraian di Jepang. Kumagai mengemukakan lima poin yang dijadikan fokus pembahasan. Pertama, jumlah *jukunen rikon* mengalami peningkatan secara signifikan beberapa tahun terakhir. Hal ini diyakini Kumagai sebagai dampak

personal dari jatuhnya perekonomian Jepang pada 1991. Kedua, *kyukunen rikon* diperkirakan akan terus meningkat ketika skema baru pembagian dana pensiun bagi pasangan yang bercerai mulai diberlakukan. Skema baru pembagian dana pensiun yang mengakomodir hak perempuan atas uang pensiun yang dibayarkan selama menikah diperkirakan akan berpengaruh terhadap penundaan keputusan bercerai pada pasangan paruh baya hingga peraturan tersebut resmi diberlakukan. Ketiga, peningkatan kasus *kyukunen rikon* merupakan hal wajar bagi orang-orang yang lahir pada tahun 1947—1949 dan dianggap berisiko mengalami *kyukunen rikon* di tengah krisis yang melanda perekonomian Jepang. Akan tetapi, Kumagai membeberkan data di mana sebenarnya jumlah perceraian di awal pernikahan jauh lebih tinggi ketimbang jumlah *kyukunen rikon*. Keempat, adanya pendapat bahwa semakin lama pasangan tersebut menikah, maka pasangan Jepang yang menikah cenderung kecil kemungkinan untuk bercerai. Hal ini terkait dengan hukum perceraian di Jepang yang mengedepankan musyawarah sebagai langkah awal perceraian. Semakin lama pasangan menikah semakin banyak pula pertimbangan yang harus dipikirkan. Kelima, alasan untuk bercerai pada usia lanjut berbeda jika dibandingkan dengan alasan perceraian secara umum

Salah satu alasan yang akan dipertimbangkan oleh pasangan lanjut usia yang akan bercerai biasanya adalah faktor keluarga. Menurut Kumagai, orang tua biasanya memutuskan untuk mempertahankan

pernikahannya untuk menunggu anak-anak tumbuh hingga mempunyai keluarga sendiri. Banyak dari para *jukunen rikon* ini menunda dalam waktu yang lama walaupun sebenarnya memang sudah merasa tidak cocok terhadap pasangannya sedari lama. Selain itu mungkin bisa juga karena memang pasangan belum mampu menerima sebuah perubahan dalam pernikahan.

B. Rumusan Dan Fokus Penelitian

1. Rumusan Masalah

- a. Bagaimanakah gambaran kasus *jukunen rikon* pada masyarakat Jepang
- b. Apakah faktor-faktor yang mempengaruhi *jukunen rikon* pada masyarakat Jepang

2. Fokus Masalah

- a. Penulis hanya membahas *jukunen rikon* secara umum pada masyarakat Jepang setelah perang dunia ke dua dari tahun 2014 sampai 2017
- b. Penulis hanya meneliti kasus *jukunen rikon* yang terdapat pada surat kabar dan jurnal blog Jepang
- c. Penulis tidak melakukan observasi penuh maupun secara langsung terhadap masyarakat Jepang yang mengalami *jukunen rikon*.

C. Tujuan Dan Manfaat Penelitian

1. Tujuan Penelitian

- a. Mengetahui perkembangan jukunen rikon yang terjadi pada masyarakat Jepang
 - b. Mengetahui faktor-faktor apa saja yang mempengaruhi jukunen rikon pada masyarakat Jepang
2. Manfaat Penelitian
- a. Penelitian ini diharapkan mampu menambah wawasan tentang jukunen rikon dan menjadi pembelajaran social budaya yang terjadi di Jepang bagi penulis dan pembaca.
 - b. Sebagai syarat kelulusan bagi penulis dan bahan referensi penelitian dengan tema sejenis baik bagi penulis maupun pembaca.

D. Definisi Operasional

1. Jukunen

Kumagai (2015) menyatakan bahwa jukunen merupakan orang-orang dengan usia paruh baya atau lansia.

2. Jukunen rikon

Kumagai (2015) mengatakan bahwa *jukunen rikon* merupakan perceraian lanjut usia yaitu perceraian yang dilakukan oleh pasangan yang sudah menikah selama lebih dari dua puluh tahun.

3. Masyarakat

Menurut Paull B. Horton dalam *The Sociology of Social Problem* (1970), masyarakat adalah sekumpulan manusia yang relatif mandiri dengan hidup bersama dalam jangka waktu yang cukup lama,

mendiami suatu wilayah tertentu dengan memiliki kebudayaan yang sama, dan sebagian besar kegiatan dalam kelompok itu.

E. Sistematika Penulisan

Sistematika penulisan pada skripsi “Analisis Deskriptif Jukunen Rikon Pada Masyarakat Jepang” terdiri dari lima bab yang saling berhubungan antara masing-masing bab.

BAB I Pendahuluan, berisi tentang latar belakang, perumusan dan fokus masalah, tujuan dan manfaat penelitian, definisi operasional, dan sistematika penulisan.

BAB II Landasan teori, berisikan teori yang berupa pengertian dan definisi yang diambil dari kutipan buku yang berkaitan dengan penyusunan laporan skripsi serta beberapa literature review yang berhubungan dengan penelitian.

BAB III Metode penelitian, berisikan penjelasan pendekatan penelitian yang digunakan oleh penulis dalam meneliti social masyarakat.

BAB IV Analisis data, berisikan penjelasan analisa permasalahan secara *detile*.

BAB V Penutup, berisi kesimpulan dan saran yang berkaitan dengan analisa dan seluruh pokok pada bab-bab sebelumnya.

BAB II

LANDASAN TEORI

A. Masyarakat Jepang

Menurut Motonobu Mukai dalam *Modernisation and Divorce Japan*, masyarakat Jepang adalah masyarakat yang homogen. Hal tersebut dicirikan dengan budaya patriarki yang kuat dan tingginya nilai kesetiaan kelompok. Salah satu ciri lain dari masyarakat homogen yaitu ketika menerima perubahan nilai budaya di dalam masyarakat maka perubahan itu akan tetap menyebar (2004: 19).

Dalam *Japan Today* (2013) *Australian Gregory Clark* mengemukakan beberapa karakteristik masyarakat Jepang, yaitu:

1. *Group mentality*

Masyarakat Jepang lebih mengutamakan kepentingan kelompok lebih dari dirinya sendiri dan akan berpusat pada perintah seorang atasan. Menurut *Clark*, dengan masyarakat Jepang yang nasionalismenya tinggi, keputusan seorang pemimpin akan menjadi pusat kemana arah mereka bahkan pemimpin bisa mengarahkan masyarakatnya untuk memilih jalan perang seperti selama Perang Dunia II.

Setelah Perang Dunia II para pembentuk kelompok dalam masyarakat Jepang tidak lagi melakukan penindasan terhadap hak-hak individu sehingga sikap kesadaran kelompok menjadi lebih baik. Meskipun masyarakat Jepang menggunakan sistem dimana setiap

anggota harus memberikan prioritasnya untuk kepentingan keluarga atau kelompok tersebut, tetapi mereka tidak memaksa dengan menggunakan aturan-aturan yang ketat. Sistem tersebut tidak tertulis secara langsung namun lebih kepada kesadaran individunya. (Yamazaki, 1994:74)

Contoh paling umum *group mentality* adalah bagaimana cara masyarakat bekerja. Pegawai banyak bekerja lembur, dan menjadi hal yang sopan ketika pekerja tetap berada di kantor jika rekan kerja yang lain belum selesai bekerja meskipun pekerjaannya sendiri sebenarnya sudah selesai. Kadang mereka membantu rekannya atau justru menyibukkan diri hingga yang lain siap untuk pulang.

2. Jujur ketika berurusan dengan orang lain

Tugas polisi sebenarnya hanyalah sebagai pusat barang hilang dimana ada orang jujur yang menemukan barang hilang namun tidak ada yang merawat, maka orang tersebut akan menyerahkannya ke kantor polisi.

Biasanya ketika terjadi kehilangan seperti di kereta, tidak akan ada yang mengambil barang tersebut untuk kepentingan sendiri. Orang Jepang tidak akan tertarik mengambil barang milik orang lain.

3. Sangat peduli terhadap pelayanan dan kebersihan

Contoh nyata dari karakteristik di atas ketika turis Jepang akan mengikuti pemandu dengan rapih dan disiplin. Bahkan fasilitas toilet

sangat diperhatikan di Jepang karena para *designernya* benar-benar memperhatikan penggunanya.

4. Pilihan untuk melakukan sesuatu dengan tangan

Meskipun teknologi di Jepang membuat tangan tetap bersih, untuk hal lain, terkadang mereka masih mempertahankan cara-cara tradisional seperti membeli blanko lamaran dan menuliskan resume mereka dengan rapih. Tulisan tangan dianggap sebagai suatu ketulusan dalam hal yang mereka minati dan sebagai salah satu cara bahwa mereka masih bisa mengingat dan menulis karakter kanji dengan baik tanpa bantuan computer.

5. Keterikatan dengan kerja tim dan sistem manajerial keluarga (*ie*)

Masyarakat Jepang bekerja dengan baik ketika dalam suatu kelompok dan bersifat kekeluargaan. Di Jepang, kantor seorang manajer hampir tidak pernah terpisah dengan bawahan langsung. Sebaliknya, seluruh tim akan duduk berkelompok dalam ruangan bahkan terkadang meja yang sama. Hal tersebut dimaksudkan untuk pertukaran ide yang baik.

6. Negara yang masyarakatnya lebih terbuka (*open minded*) dalam berurusan dengan hal-hal dari luar negeri dari pada orang-orang dari luar negeri

Sekarang semakin banyak orang Jepang yang berkunjung ke luar negeri dan begitu sebaliknya. Hal tersebut membuat permasalahannya berkurang.

7. *Undefined political ideology*

Partai politik terbesar di Jepang adalah demokrasi liberal dan partai demokrasi. Tapi sebenarnya tidak ada perbedaan yang mencolok antara kedua partai.

8. Emosional dan agresif

Walaupun sebagian besar orang Jepang menggambarkan Jepang sebagai masyarakat yang tenang dan pendiam tetapi invasi Negara China pada tahun 1930 merupakan wujud agresifitas Jepang.

9. Kurangnya kejelasan kebijakan diplomatic atau ekonomi

Menurut *Clark*, seharusnya ada keputusan yang dibuat oleh pihak Jepang contohnya mengenai istilah "*Japan the Lost Decade*" yang merupakan periode resesi ekonomi selama tahun 1990an yang diikuti dengan istilah "*Bubble Economy*" tahun 1980an

10. Kurangnya kemampuan berfikir kritis

Sistem pendidikan dasar dan menengah di Jepang sangat patut untuk dipuji namun tidak dengan universitasnya. Kurangnya jajak pendapat antara instruktur dan muridnya. Mungkin karena banyak perusahaan yang akan mempertahankan karyawannya seumur hidup dan member mereka cukup pelatihan untuk mempercepat kesuksesan karir, kemampuan berfikir kritis tidak tersistem.

11. Pentingnya rasa malu

Masyarakat Jepang umumnya akan merasa khawatir apabila tindakan mereka akan mempengaruhi orang lain sehingga ketika

melakukan kesalahan, mereka akan benar-benar menganggapnya sebagai sesuatu yang serius bahkan di Jepang memiliki banyak ungkapan permintaan maaf.

12. Tidak menyukai tuntutan hukum

Masyarakat Jepang merupakan orang-orang tidak ingin menimbulkan masalah bagi orang lain yang membuat mereka menghadapi keadaan yang tidak benar-benar bahagia seperti tetap berada di kantor walaupun pekerjaannya telah selesai merupakan salah satu cara orang Jepang agar dirinya tidak terkena tuntutan atau masalah. Mereka juga lebih senang membicarakan masalah yang terjadi secara kekeluargaan dengan damai tanpa melibatkan hukum.

Penelitian di atas dilakukan kurang lebih 60 tahun yang lalu. Sekarang bangsa Jepang telah tumbuh dan masing-masing memiliki pola pikir yang unik juga. bahkan menurut Japan Today (2013), Paula Gerhold mendeskripsikan Jepang sepuluh kata yang dianggap paling tepat saat ini yaitu:

1. Polite

Masyarakat Jepang dikenal sangat sopan dimana selalu melakukan *ojigi* sebagai salam meskipun jabat tangan sudah mulai menjadi hal yang cukup umum saat ini. Dalam pandangan orang barat, *ojigi* dianggap lebih sopan dari pada jabat tangan dan sejenisnya. Hanya saja, salam khas Jepang tersebut kadang terkesan menjaga jarak dengan orang padahal sudah kenal dalam waktu yang cukup lama.

2. Tepat waktu

Manajemen waktu adalah hal yang benar-benar diperhatikan di Jepang. Sebagai contoh adalah jadwal kereta di Jepang yang selalu tepat waktu sesuai jadwal. Bahkan orang yang telat bekerja juga dianggap sebagai perilaku yang buruk.

3. *Kind*

Istilah “*yasashii*” dan “*omoyari no aru*” yang berarti memikirkan orang lain, lebih tepat untuk menggambarkan sikap di atas. Contohnya adalah ketika bertamu, orang Jepang mempunyai kebiasaan untuk membawa sesuatu seperti makanan.

4. Pekerja keras

Dalam budaya Jepang ada anggapan bahwa seharusnya pekerjaan lebih diutamakan dari pada keluarga. Bahkan ada fenomena “*karoshi*” dimana pekerja meninggal kelelahan saat bekerja.

5. *Respectful*

Orang Jepang sangat menghormati orang yang lebih tua. Ketika kita menggunakan bahasa informal kepada orang yang lebih tua (kecuali keluarga), maka hal tersebut dianggap sebagai hal yang tidak baik. dalam keluargapun masih ada yang menggunakan bahasa formal sesuai dengan kedudukan mereka.

6. Malu

Disebut juga “*hazukashigariya*” atau orang yang sangat pemalu. Bisa jadi merupakan lanjutan dari kesopanan dan keramahan.

7. Cerdas

Ada stereotip yang menyatakan bahwa orang Asia itu cerdas. Cerdas dalam bahasa Jepang menggunakan kata “*kashikoi*” sedangkan dalam bahasa Inggris menggunakan kata “*smart*”. Ketika kata “*smart*” diucapkan dalam huruf *katakana* di Jepang, artinya justru lebih menjurus pada kata seksi dan langsing, bukan cerdas dalam arti yang sebenarnya. Hal ini membuktikan bahwa orang Jepang mempunyai pandangan yang berbeda.

8. Berkelompok

masyarakat Jepang senang berkelompok. Kita lebih sering melihat turis Jepang, siswa sekolah, dan lain sebagainya bepergian atau melakukan suatu tugas dalam satu kelompok.

9. Formal

Formal bisa dianggap sebagai lanjutan dari sikap sopan Jepang. Di Jepang mempunyai tingkatan bahasa sesuai dengan kedudukan atau seberapa dekat dengan seseorang. Untuk berbicara dengan orang luar maka mereka akan menggunakan bahasa yang formal. Meskipun sudah kenal bertahun-tahunpun, akhiran *-san* di belakang nama seseorang sering kali masih dipakai.

10. Bersih

Banyak terlihat perlakuan orang Jepang di internet seperti memungut sampah di sekitar mereka meskipun itu sampah orang lain. Sekolah-sekolah di Jepang juga dibersihkan oleh murid-muridnya

sendiri. Hal tersebut merupakan contoh betapa orang-orang Jepang sangat memperhatikan kebersihan.

Jadi, masyarakat Jepang adalah masyarakat yang homogen dan berisi orang-orang yang hidup berkelompok dan memiliki pemikiran dimana kepentingan kelompok lebih utama dari pada kepentingan individu. Meskipun tidak ada larangan tertulis, sistem kesadaran masyarakat mampu mengaturnya.

B. Keluarga Jepang zaman *Heisei*

Pada kesempatan ini penulis akan memaparkan tentang keluarga Jepang era Hesei karena penelitian ini difokuskan pada jaman tersebut. Menurut artikel www.britannica.com, jaman *Heisei* merupakan jaman ketika pangeran Akihito diangkat menjadi kaisar pada tahun 1989 untuk menggantikan ayahnya yaitu Kaisar Hirohito yang berkuasa di jaman Shouwa. Nama Heisei diambil dari dua kanji yang yaitu “*hei*” (平) yang berarti “damai” dan “*sei*” (成) yang berarti “menjadi atau mencapai”. Jadi jaman Heisei bisa diartikan mencapai perdamaian.

Dalam sebuah keluarga, penuaan menjadi sesuatu yang penting dan berpengaruh tidak hanya bagi para lanjut usia namun juga untuk keluarganya. Karena cita-cita terdahulunya masih terus memainkan peran penting dalam masyarakat Jepang. Anak-anak dewasa dan keluarga mereka, terutama keluarga putra diharapkan untuk memberikan dukungan kepada orang tuanya yang sudah lanjut. Meskipun hal ini mulai berkurang

di jaman sekarang, orang tua yang tinggal dengan keluarga anaknya tetap ada (Motonobu, 2004:63).

Akihito Kato dalam buku *The Japanese Family Sistem* (2013:25) berpendapat tentang Ideology keluarga konjugal yang pada awalnya merupakan pandangan tradisional keluarga di Eropa barat laut terutama Inggris, diperkenalkan ke Jepang selama masa pasca Perang Dunia II untuk menggantikan ideologi *ie* pada masa sebelum Perang Dunia II. Konsep keluarga konjugal diadopsi dari barat lewat media-media dan telah menyebar pada kaum muda Jepang dan terbantu oleh mereka yang memuja barang-barang Amerika. Meskipun masyarakat Jepang memuja ideology baru tersebut, namun menanamkan hal tersebut bukanlah hal yang mudah.. nilai-nilai baru tersebut cenderung berseberangan dengan praktik-praktik yang dilakukan sehari-hari oleh mereka. sehingga ada kesenjangan antara ideal dan prakteknya. Tapi Sudiharto, dalam *nuclear family*, satu keluarga inti cenderung terdiri dari suami, istri, dan anak-anak.

Gambaran keluarga Jepang yang menikah di era 1960an, 1970an, dan 1990an bukanlah pernikahan yang mencerminkan sebagai teman hidup satu sama lain. Pasangan lebih Nampak seperti aktor yang memerankan perannya yang disesuaikan dengan gendernya. Pekerjaan pada masa itu masih dikotak-kotakkan sehingga tidak bisa berkembang pada hal lainnya. Jadi pernikahan adalah hubungan yang dikendalikan bersama dengan ketidakmampuan yang saling melengkapi. Seorang laki-laki tidak akan belajar mengerjakan pekerjaan rumah tangga bahkan untuk

hal-hal yang mereka butuhkan, begitu juga dengan wanita yang tidak dapat menghasilkan uang untuk menghidupi dirinya. Hubungan suami-istri digambarkan hanya sebagai orang tua dari pada sebagai teman atau rekan-mitra, mereka memang saling membutuhkan namun dengan cara yang berbeda dari cita-cita pernikahan yang disarankan (Allison Alexy, 2007:178).

Kemudian Motonobu mengatakan bahwa Pandangan individualistik menjadi faktor utama dalam transisi keluarga yang kini berarti anggota keluarga terbebas dari keluarganya (2004:57). Perempuan modern lebih memiliki hak kebebasan individu. Peningkatan kecocokan cinta telah mengembangkan pandangan yang individualistik dan mempengaruhi pandangan terhadap perceraian. Hal ini mempengaruhi tingkat perceraian di Jepang. Terjadinya *personality clash* antar pasangan menjadi alasan utama perceraian. Jadi dalam survey pada tahun 1998 menurut Laporan Statistik Peradilan oleh Sekretariat Jendral Mahkamah Agung menunjukkan bahwa motif paling penting untuk klaim perceraian antara suami istri adalah *personality clash* atau ketidakcocokan karakter.

Dalam buku karya Susan D. Holloway juga dijelaskan bahwa budaya barat dianggap sebagai penyebab utama dimana perempuan mengabaikan kehidupan keluarga sehingga para politisi yang konservatif bahkan sampai mendorong pemerintah untuk mencabut pasal yang memberikan hak-hak terhadap perempuan seperti hak memiliki properti dan memperoleh perceraian dan memang laporan pemerintah baru-baru ini

juga menegaskan hak-hak yang sama dengan menyerukan bahwa “keegoisan setelah masa perang dunia Jepang, mengarahkan pada runtuhnya keluarga dan kelompok” (Beaach, 2005:4).

Perdebatan antara hak-hak wanita cukup banyak tapi kemudian diarahkan ke arah yang berbeda. Salah satunya adalah pemerintah telah mengakui keputusan bahwa masalah kesuburan adalah hak individu dan memberi orang tua dana untuk mengimbangi biaya pengasuhan anak.

Keiko Kashiwagi (1998:5) berpendapat sebagian besar akademisi memandang perempuan Jepang sebagai tempat untuk menghasilkan anak-anak dari pada sebagai individu secara utuh yang mempunyai perasaan dan kepercayaan yang seharusnya dipertimbangkan terlepas dari kemampuan *parenting* untuk menjadikan anak berprestasi. Tentu sangat ironis ketika sebenarnya perempuan memang diberikan perhatian lebih, tetapi hanya karena negara khawatir tentang tingkat kelahiran yang menurun. Menurut Keiko, sebenarnya sebagian perempuan pasti ingin menjadi ibu jika kondisi masyarakat memang memungkinkan mereka memiliki anak dan menjalani hidup yang utuh dan memuaskan. Bisa dikatakan bahwa status wanita bermasalah sehingga untuk menjadi istri maupun ibu adalah hal yang kurang meyakinkan. Bahkan sebagian besar ibu di Jepang sebenarnya mengalami kecemasan dan tidak percaya diri dalam pengasuhan. Hal ini bisa dijadikan sebagai indikasi bahawa sebenarnya ada rasa ketidak nyamanan seorang perempuan di tengah keluarga yang dibangun. Namun dengan karakter orang jepang yang mempunyai paham

kelompok tetapi sebenarnya juga individualis sudah dipastikan akan tetap melakukan pekerjaannya sebagai ibu rumah tangga hingga tugasnya dirasa selesai.

Dari paparan di atas menunjukkan bahwa perempuan di zaman modern lebih bebas. Dikatakan bahwa salah satu penyebab perempuan mulai mengabaikan keluarga oleh budaya barat yang masuk. Namun tetap saja bagi pemerintah, kiprah perempuan dalam sebuah keluarga masih dianggap sebagai individu yang akan membantu populasi dan tingkat kesuburan, bukan sebagai individu secara utuh.

C. Perceraian di Jepang zaman Heisei

1. Perkembangan perceraian di Jepang zaman Heisei

Zaman Heisei adalah zaman ketika pangeran Akihito naik tahta menggantikan ayahnya sebagai kaisar. Beliau masih memimpin Jepang hingga saat ini. Pada paruh kedua tahun 1980-an, tingkat perceraian cenderung naik turun yang kemungkinan diakibatkan oleh menurunnya juga jumlah perkawinan. Tapi kemudian tingkat perceraian di Jepang pada tahun 2000 justru meningkat. Namun memang setelah itu tingkat perceraian juga cenderung menurun. Tingkat pernikahan yang menurun dan angka perceraian tentu melahirkan banyak masalah seperti kelahiran dan masalah keluarga tunggal. Untuk lebih jelas, kita bisa melihat tabel statistik angka pernikahan dan perceraian.

Menurut Goode, kebanyakan perceraian di masa lalu terjadi pada pasangan dengan usia pernikahan yang singkat namun baru-baru

ini justru terjadi peningkatan perceraian pada pasangan yang sudah hidup bersama dalam waktu yang matang sebagai pasangan suami istri. Presentase perceraian pada pasangan yang telah hidup bersama lebih dari dua puluh tahun meningkat dari 3% menjadi sekitar 16% pada tahun 2000. Dalam banyak kasus, seorang istri membuat keputusan bercerai setelah anak-anak tumbuh dewasa dan setelah seorang suami meninggalkan pekerjaannya. Tentu ini menunjukkan bahwa keputusan perempuan jauh dari nilai-nilai keluarga tradisional. Perceraian di Jepang tentu berbeda dengan Negara lain. Beberapa Negara membutuhkan keputusan pengadilan untuk bercerai namun di Jepang, perceraian umumnya menggunakan kesepakatan bersama. Kedua pasangan yang telah setuju untuk bercerai hanya perlu mengirim formulir perceraian ke kantor pemerintahan setempat. Tetapi berbeda cerita jika dalam perceraian terjadi beberapa ketidaksetujuan pasangan seperti hak asuh, maka jalan perceraian akan lebih panjang.

Hiroshi Ono mengatakan dalam *Divorce in Japan* (2006:221) bahwa terdapat pola pernikahan dan perceraian di masyarakat Jepang masa kini. Sekitar tahun 2003, tingkat perceraian di Jepang paling tinggi jika diteliti dari periode pasca perang. Bahkan tidak ada tanda-tanda bahwa tingkat angka perceraian akan menurun di masa-masa mendatang. Tren sosial masyarakat Jepang justru terlihat tidak sejalan dengan perilaku orang Jepang yang justru dikenal menghargai keselarasan, kesetiaan, dan komitmen jangka panjang. Meskipun jika

dibandingkan dengan negara-negara lain tingkat perceraian di Jepang masih tergolong rendah, namun dengan meningkatnya angka perceraian, menurut Hiroshi Ono hal tersebut dianggap sebagai salah satu bukti pergeseran budaya dan matinya nilai-nilai tradisional masyarakat Jepang.

Seorang pengacara, Takashi Nozawa (*President Online*, 2018) mengaku telah terlibat dalam banyak kasus perceraian hingga saat ini. Tetapi pemilik aset dan keluarga kaya tidak berada pada urutan pertama sebagai kasus terbanyak yang ditangani. Bahkan jika keluarga kaya bercerai, justru sering tidak banyak bicara. Banyak kasus yang rumit justru terjadi pada orang dengan aset atau pendapatan tahunan yang kurang. Proses akan memakan waktu lama karena memiliki aset terbatas dan saling mengatakan atau menyebut pasangan yang digugat menyembunyikan kekayaan. Sesungguhnya perceraian dianggap sebagai perang informasi entah itu dari segi penghasilan maupun lainnya. Baru-baru ini, karena perkawinan yang terlambat dan kelahiran yang terlalu dini, kasus-kasus meningkat untuk pengasuhan anak-anak meskipun terjadi pada perceraian yang matang. Karena sangat sulit bagi seorang suami untuk mengambil hak asuh, sering terjadi bahwa hak yang didapat oleh dukungan anak atau distribusi properti ditentukan tergantung pada tingkat pertukaran yang diinginkan. Ada jumlah tunjangan bulanan untuk anak yang diputuskan sesuai dengan pendapatan tahunan kedua belah pihak,

jumlah anak-anak, dan masa dukungan anak, yang diadopsi oleh banyak pengadilan keluarga di Jepang. Biaya penitipan anak yang dinegosiasikan pada saat perceraian dapat diubah setelah perceraian dan dapat dikurangi jika penghasilan menurun dari saat perceraian. Namun, bahkan jika terjadi kebangkrutan, pembayaran biaya dukungan anak tidak ada pengecualian.

2. Jenis perceraian menurut hukum di Jepang

a. *Kyogi rikon* atau perceraian dengan kesepakatan bersama

Kedua pasangan bercerai dengan kesepakatan bersama tanpa suatu masalah.

b. *Chotei rikon* yaitu perceraian konsiliasi

Mediasi dilakukan ketika kedua pasangan yang ingin bercerai tetapi tidak mendapat kesepakatan.

c. *Shinpan rikon* yaitu perceraian dengan penyesuaian

Ketika konsiliasi tidak berhasil maka pengadilan akan mengganti dengan penilaian dari pengadilan.

d. *Saiban rikon* yaitu perceraian dengan peradilan

Perceraian peradilan ditentukan jika:

- 1) Ketika salah satu pasangan tidak setia dengan pasangannya yang lain.
- 2) Ketika salah satu pasangan ditinggalkan dengan jahat atau ditelantarkan oleh pasangannya yang lain.

- 3) Ketika salah satu pasangan tidak ada kabar dan tidak diketahui selama lebih dari tiga tahun.
- 4) Ketika salah satu pasangan menderita penyakit mental serius dan peluang untuk sembuh sangat kecil.
- 5) Ketika pasangan mempunyai alasan serius lainnya yang akan menyulitkan melanjutkan kehidupan pernikahannya.

Namun Kumagai menyatakan sebagian perceraian dilakukan dengan kesepakatan (2004, 5).

3. Karakteristik perceraian yang mencolok di Jepang

a. Durasi pernikahan sebelum bercerai

Sikap terhadap pernikahan mulai berubah. Tidak hanya lebih banyak orang yang menunda pernikahan ke tahun-tahun terakhir mereka tetapi juga perubahan signifikan telah muncul tentang motivasi mereka untuk menikah (Kumagai:122). Ada yang termotivasi oleh pertimbangan keharmonisan keluarga terjadi secara komparatif. Sedangkan yang didasarkan pada aspek kebahagiaan pribadi bisa terjadi kapan saja.

Setelah perang dunia II perceraian terjadi setelah lima tahun menikah, berubah secara signifikan menjadi sepuluh tahun menikah, perceraian di atas 20 tahun pernikahan meningkat pesat dimana pada 1945 presentase mencapai 3,1% lalu menjadi 16,14% di tahun 2013.

b. Hak asuh anak dalam perceraian

Hal penting jika anak belum cukup dewasa ketika bekerja. Pada dasarnya anak yang belum bekerja masih menjadi tanggungan orang tuanya. Meskipun sudah bercerai, suami tetap harus membiayai kebutuhan anak. Sangat wajar bila setiap pasangan ingin tinggal bersama anaknya.

c. Perceraian kesepakatan bersama

Secara bertahap, dari seluruh perceraian selama setahun, hampir sembilan dari sepuluh kasus didasarkan pada kesepakatan bersama.

4. Istilah perceraian

a. *Narita Rikon*

Perceraian *Narita* berarti bahwa pasangan yang menikah dan pergi berbulan madu mencoba untuk bercerai segera setelah kembali ke rumah. Jadi kedua pasangan saling bertengkar selama bulan madu sehingga memutuskan bercerai dengan alasan bahwa mereka tidak benar-benar saling mengenal. Istilah *narita* sendiri diambil dari nama bandara yang biasanya mereka lewati.

b. *Pepa rikon*

Keadaan dimana pasangan sudah bercerai namun hanya di atas kertas. Maksudnya adalah mereka sudah bercerai secara hukum, bahkan nama istri sudah kembali menjadi nama gadis

mereka tapi sejatinya mereka masih tinggal bersama sebagai sepaasang suami istri.

c. *Jukunen rikon*

Adalah perceraian dimana usia pernikahan sudah berusia dua puluh tahun atau lebih.

d. *Sekkasuresu rikon*

Pasangan yang menikah tanpa melakukan aktifitas seks. Bisa jadi karena sama-sama bekerja dan lelah.

e. *Mazakon rikon*

Adalah perceraian yang sebenarnya tidak hanya dikarenakan karena masalah keluarga. Namun juga karena suaminya menderita penyakit *mazakon* dimana suaminya begitu menyukai orang yang lebih tua termasuk ibunya . bahkan suami ingin menikahi dan hidup bergantung pada ibunya saja dari pada bersama istrinya.

Jadi, tingkat angka perceraian di Jepang dipengaruhi juga oleh angka pernikahan. Tingkat perceraian meningkat sekitar tahun 2000 kemudian kembali menurun meskipun tidak terlalu drastis. Umumnya perceraian di Jepang dibicarakan baik-baik dengan kekeluargaan. kemudian dari beberapa istilah populer dalam perceraian bisa ditemukan kata *jukunen rikon* yang menandakan bahwa memang benar adanya perceraian di usia matang tersebut menjadi sesuatu yang sering dibicarakan..

D. Perceraian lanjut usia (*Jukunen rikon*)

1. Pengertian *jukunen rikon*

Jukunen rikon atau *mature divorce* dalam kamus *Nihon Daijiten* terdiri dari dua kata yaitu 熟年 (*Jukunen*) berarti usia yang matang dan *rikon* (離婚) berarti bercerai. Jika digabungkan maka artinya menjadi perceraian usia matang. Allison Megan Alexy (2007:172) menjelaskan *jukunen* merupakan rentang antara umur paruh baya dan renta atau dalam bahasa Indonesia disebut lanjut usia yaitu sekitar 45 tahun ke atas. Namun istilah *jukunen rikon* tidak hanya mengacu pada usia orang yang bercerai tetapi justru lebih kepada usia pernikahannya. Banyak media luar yang mengartikan *jukunen rikon* sebagai “*middle-aged divorce*” atau “*silver divorce*” tapi sebenarnya itu merupakan kata yang keliru karena kurang menggambarkan pentingnya usia dan perjalanan hidup dalam perceraian ini. “*middle-aged divorce*” hanya menggambarkan orang yang bercerai di usia 40an sedangkan “*silver divorce*” menggambarkan usia pasangan yang sudah lemah. Seperti penjelasan dari jp.wsj.com, perceraian bisa dikategorikan ke dalam *jukunen rikon* apabila usia pernikahan sudah mencapai dua puluh tahun ke atas. Dengan usia yang sudah matang tersebut, maka secara otomatis usia pasangan yang bercerai juga sudah matang. Namun dalam Japantoday.com (2013) menyebutkan bahwa *jukunen rikon* adalah perceraian yang dilakukan oleh pasangan usia 50an yang telah tinggal bersama selama 25 tahun atau lebih. Hal tersebut diperkuat

dengan penjelasan Fumie Kumagai dalam jurnalnya yang berjudul *Late Life Divorce in Japan Revisited: Effect of The Old-Age Pension Divisin Scheme* menjelaskan bahwa perceraian yang terjadi di Jepang pada pasangan yang menikah lebih dari dua puluh tahun adalah pengertian dari *jukunen rikon* atau *late life divorce*, dan memang hal tersebut telah menjadi semakin umum sejak tahun 1990-an.

Dalam proses perceraian baik perceraian lanjut usia maupun perceraian secara umum sangat mudah yaitu dengan mengisi form perceraian yang dapat diperoleh dari catatan sipil setempat. *Jukunen rikon* sendiri merupakan dampak dari modernisasi Jepang pasca Perang Dunia II. Setelah masa Perang Dunia II tersebut lahirlah generasi yang disebut sebagai *baby boomer* yang mana dianggap sebagai generasi yang banyak melakukan perceraian di usia lanjut.

Jukunen rikon disebut juga sebagai “*nure ochiba rikon*” atau perceraian karena suami diibaratkan sebagai daun basah yang tertinggal ketika disapu. Jadi maksudnya daun basah disini adalah sesuatu yang sangat mengganggu karena sulit untuk disapu. Ini berarti perempuan menganggap suami yang sudah senja dan menghabiskan waktu di rumah sebagai orang yang menyusahkan, tidak berguna. Bahkan untuk menggambarkan ketidak berguna itu, muncul istilah lanjutan dari *nure ochiba* yaitu *sodaigomi* yang berarti sampah yang sudah terlalu besar. Selain itu ada juga istilah “*taishoku-kin rikon*” yang berarti perceraian tunjangan pensiun (Fumie Kumagai,2015:123)

Sebenarnya *Jukunen rikon* sangat berdampak pada hari tua pasangan yang bercerai. Banyak pria yang hidup sendiri di masa tuanya akibat diceraikan oleh istri, namun ada juga yang menikah lagi dengan perempuan yang lebih muda. Namun untuk sebagian besar wanita justru lebih fokus untuk memperhatikan dirinya sendiri karena sebelum bercerai wanita merasa dibatasi oleh tanggung jawabnya sebagai ibu rumah tangga. Biasanya mereka menggunakan hasil pembagian dana pensiun sebagai bantuan untuk modal awal kehidupan barunya. Banyak wanita yang berusaha melakukan tapi masalah bahagia atau tidak, itu tidak bisa menjadi jaminan. Pemerintah Jepang cukup memperhatikan masalah pasangan yang bercerai di usia lanjut dengan meningkatkan beberapa fasilitas pemerintah seperti pelayanan bangunan, pelayanan fasilitas, dan pelayanan berbasis masyarakat. Pelayanan tersebut tidak hanya diberikan terhadap orang yang tinggal sendiri namun juga warga lain yang terkena sakit parah atau cacat.

Membicarakan *jukunen rikon* kurang lengkap jika tidak membahas tentang dana pensiun. Sebenarnya menurut Allison (2007:174-174), dengan pemerintah di Jepang mengatur dan mereorganisasi sistem pensiun cukup memperjelas pekerjaan apa yang dihargai dan yang tidak. Tapi Jepang membagi warga Negara ke dalam kategori pensiun yang sayangnya tumpang tindih, yaitu:

- a. *Kokumin nenkin*, setiap warga Negara yang berusia di atas 20 tahun seharusnya masuk ke dalam (menjadi anggota) sistem pensiun nasional
- b. *Kousei nenkin*, karyawan perusahaan swasta bisa berkontribusi dengan sistem pensiun nasional yaitu membayar sebagian penghasilannya setiap bulan
- c. Orang-orang yang didukung oleh kedua kategori sebelumnya.

Karena ibu rumah tangga yang tidak bekerja tidak diwajibkan membayar premi perorang. Dilaporkan tentang perubahan hukum yang memungkinkan istri bisa mendapat sebagian pensiun yang dibayar suami. Jadi istri mempunyai hak untuk mengklaim sebagian dana pensiun mantan suami mereka. Undang-undang baru tersebut diusulkan dan pertama kali dikenalkan pada Januari 2004 oleh perdana menteri Koizumi dan Partai Demokrasi Liberal.

2. Faktor-faktor *jukunen rikon*

Menurut Ikeuchi, Ito, dan Iwai (2006) dalam "*Deffered Benefits, Romance, and the Specter of Late-Life Divorce*", ada beberapa karakteristik pernikahan yang beresiko untuk bercerai di usia matang, yaitu renggangnya hubungan emosional antar pasangan, kekerasan fisik maupun verbal, suami yang tidak membantu pekerjaan rumah sama sekali, pasangan yang tidak saling berbicara, pasangan yang tidak menggunakan kata yang sopan seperti *aisatsu*, pasangan yang

tidak melakukan hubungan seksual, kecanduan alkohol dan judi, dan perselingkuhan.

Menikmati hidup setelah pensiun sebagai pasangan belum menjadi gaya hidup yang dihargai di Jepang. Sebagian besar pria yang mengabdikan hidup mereka untuk bekerja di luar rumah akan sulit mengelola waktu luang ketika pensiun. Sedangkan wanita Jepang sudah terbiasa mandiri tanpa suami di rumah. Kehadiran suami yang tidak terbiasa di rumah seringkali berdampak negatif pada kehidupan keluarga. Atau bisa juga ternyata dari awal pasangan, rumah tangga, atau pernikahannya tidak baik maka akan semakin merasa beban jika harus terus bersama dengan pasangan. Istri jadi merasa tidak betah. Keadaan bisa semakin memburuk jika ternyata kondisi ekonomi dan kesehatan juga menurun (Kumagai:2006). Selanjutnya, suami yang sebelumnya penuh dedikasi tinggi tidak mempunyai minat atau hobi khusus untuk dikembangkan dan tidak mempunyai tempat khusus untuk pergi sehingga para suami cenderung tinggal di rumah sepanjang hari. Istri pun harus menyiapkan makan untuk suaminya tiga kali sehari dan merasa kebebasan sebelum suaminya pensiun berkurang. Apalagi ketika suami menjadi begitu ingin tahu kemanapun istrinya pergi bahkan memaksa ikut. Hal itu juga bisa disebut sebagai *nure ochiba*. Kembali lagi pada penyebab perceraian lanjut usia sebenarnya saling berhubungan dengan dana pensiun. Pada tahun 2007 ada revisi pada pensiun hari tua. Pada tahun 2007, generasi *baby boomer* (generasi

yang lahir antara 1947-1949) mulai mencapai usia lanjut sekitar 60-an yang merupakan usia pensiun bagi banyak perusahaan di Jepang. Jadi setelah masa itu banyak suami yang mengabdikan seluruh hidupnya untuk bekerja mulai pensiun. Setelah pensiun, banyak dari mantan pengusaha menghabiskan sebagian besar waktunya di rumah. Banyak suami yang susah untuk *manage* waktu luangnya sehingga istri merasa tidak nyaman berurusan bersama dengan suami yang berkeliaran di rumah sepanjang hari. Karena itu wajar bagi istri untuk mulai memusuhi sang suami dan mempertimbangkan perceraian.

Waktu untuk memperdalam hubungan dengan keluarga oleh suami juga sangat kurang. Karena maskulinitas terhadap suami digambarkan dengan bekerja keras di tempat kerja, berkompetisi dengan hasil, pendapatan, dan posisi sudah ditanamkan sejak kecil bahwa laki-laki harus bisa belajar, masuk universitas dan perusahaan dengan nilai yang sangat baik. Hal tersebut membuat laki-laki kurang berkomunikasi atau berbagi waktu dengan keluarganya. Mereka sudah terdoktrin untuk mengejar target-target tersebut. Beberapa suami enggan untuk menyatakan rasa terima kasih kepada istri yang sudah mengurus keluarganya karena dinilai kurang jantan. Segala hal yang menunjukkan sisi lemah kepada istri oleh suami dianggap sebagai sesuatu yang dapat membalikkan struktur dominasinya. Sekalipun membutuhkan seorang istri maka suami enggan untuk mengatakan perasaan yang sebenarnya. Merekapun akan lebih memilih untuk

menjaga rahasianya dari pada bercerita dengan seorang perempuan (istri). Dalam berkomunikasi, suami lebih seperti memerintah istrinya. Hal tersebut membuat suami sulit berkomunikasi dengan istrinya (Yoshida,2013:3).

Adanya perselingkuhan antara pasangan menikah juga salah satu karakter buruk pasangan. Bahkan ada pasangan yang memang sudah menjalin hubungan dengan perselingkuhan selama bertahun-tahun tetapi tetap tidak bercerai karena faktor anak sehingga baru bercerai ketika sudah usia matang. Dalam kasus ini terdapat beban mental yang dipendam lama hingga waktu bercerai. Hal tersebut didukung oleh teori Yamashita (1986), bagi perempuan yang menghabiskan waktu sebagai ibu rumah tangga penuh, perselingkuhan adalah pukulan berat bagi mereka dalam berumah tangga dan mengatakan adanya beberapa kasus perselingkuhan oleh salah satu pasangan yang ia teliti menjadi alasan kuat pasangan lanjut usia bercerai.

Lalu ada juga beberapa alasan suami menggugat istrinya yang sudah bersama di usia pernikahan yang matang (*Yourbengo:2017*), yaitu suami merasa terkekang, tidak tahan dengan ucapan istri, tidak merasa dicintai, dan istri yang tidak mau mendengar perkataan suami

Berdasarkan teori-teori pada paragraf di atas, penulis menyimpulkan bahwa tidak puas terhadap sikap pasangan merupakan faktor yang mempengaruhi *jukunen rikon*.

Menurut Emiko dalam Yoshida (2014:4) salah satu karakteristik keluarga modern adalah berpusat pada anak. Anak memiliki fungsi penting terhadap keluarga, sehingga demi anak istri melakukan perannya. Ada juga istilah “*ko wa Kasugai*” yang berarti anak adalah sebuah ikatan antara orang tuanya, artinya orang tua akan menjaga pernikahan mereka namun ketika anak-anak telah meninggalkan rumah, orang tua akan mengalami transisi. Mereka yang tidak dapat mengatur dinmika pernikahan mereka akan menghadapi pernikahan di akhir usia.

Padahal beberapa penelitian menunjukkan bahwa dari sudut pandang anak-anak, mereka merasa lebih baik melihat orang tua bercerai dari pada terus melihat orang tuany bertengkar (Fumie Kumagai, 2015: 120).

Orang tua akan berpikir sekian kali untuk bercerai karena takut berdampak buruk terhadap anak. Apalagi ketika ditinjau dari segi ekonomi, ketika anak telah mandiri maka anak tersebut sudah bisa mencari makan untuk diri sendiri. Tambahan lagi adalah informasi mengenai pendapatan tahunan perempuan rata-rata menurut *Average Annual Income of Women Average 282,9 yen*, memang biaya hidup di usia tua tidaklah mudah, tapi itu hanya menjadi masalah ketika hidup sendiri ketika masih muda.

Penyebab peningkatan perceraian yang matang adalah bahwa ada beberapa orang yang bekerja untuk wanita di usia 50-an dan 60-an,

dan tampaknya ada sebagian besar ibu rumah tangga yang akan khawatir tentang ekonomi jika mereka bercerai. Jadi untuk mendapatkan uang selama bertahun-tahun, ada peningkatan kasus perceraian karena dana perceraian terakumulasi. Ada juga anak sebagai salah satu alasan mengapa perceraian yang matang semakin meningkat. Bahkan dikatakan bahwa seandainya pun harus bercerai, orang tua harus menunggu anaknya tumbuh dewasa (*Syukatsulabo: 2018*).

Dari beberapa paragraph di atas, penulis menyimpulkan bahwa faktor *jukunen rikon* dipengaruhi oleh anak yang sudah mandiri

Seiring waktu, persepsi tentang perempuan yang mengalami perceraian dianggap sebagai perempuan yang gagal telah berubah. Sekarang masyarakat lebih terbuka. pandangan negative tentang perceraian sudah jauh berkurang. Hal tersebut dianggap sebagai salah satu faktor oleh Yamashita (1986:247). Pernyataan Iwao (1993:20) bahwa perceraian di Jepang saat ini lebih mudah karena melakukan pertimbangan secara pribadi. Berbeda dengan zaman dahulu yang harus melibatkan keluarga besar juga memperjelas adanya perubahan pandangan tentang perceraian.

Menurut Otani (2008), perceraian lanjut usia diprakarsai oleh pihak istri. Alasan utamanya adalah ketidakpuasan dengan peran gender dalam hubungan suami-istri, istri ditempatkan di bawah kontrol suami dan tidak diperlakukan sebagai mitra sederajat. Suami seolah

mempunyai hak sebagai penguasa dan istri adalah bawahan sehingga istri merasa tidak puas tentang haknya.

Selain perceraian, Motonobu mengatakan bahwa pandangan individualistik menjadi faktor utama dalam transisi keluarga yang kini berarti anggota keluarga terbebas dari keluarganya (2004:57). Perempuan modern lebih memiliki hak kebebasan individu. Peningkatan kecocokan cinta telah mengembangkan pandangan yang individualistik dan mempengaruhi pandangan terhadap perceraian.

Perempuan Jepang saat ini cenderung lebih mandiri dengan tidak hanya berfokus pada pekerjaan rumah tangga yang mengandalkan penghasilan suami. Banyak dari mereka yang mengikuti berbagai kegiatan di sela-sela kehidupannya bahkan juga bekerja sehingga pergaulan lebih luas. Menurut Yamashita (1986:416-417), perempuan Jepang kini tidak lagi sepenuhnya bangga menjadi ibu rumah tangga sehingga menjadi salah satu elemen yang memperkuat keinginan seorang istri untuk bercerai.

Selanjutnya menurut Sugimoto (172), setelah Perang Dunia II, perceraian tidak lagi menjadi hal yang tabu. Bagi perempuan, perceraian merupakan pilihan yang dianggap berani dan patut dihormati. Kebebasan individu, kebebasan diskriminasi dan kesetaraan gender yang diperoleh perempuan setelah perang dunia membuat partisipan perempuan dalam dunia pendidikan dan dunia kerja sehingga membuat perempuan semakin mandiri. Allison (2007:183) berpendapat bahwa

wanita dengan pekerjaannya menjadi salah satu standar perceraian seolah mereka tidak membutuhkan suaminya.

Tapi Otani (dalam Kumagai, 2015) menyatakan beberapa pendapatnya tentang penyebab perceraian lanjut usia justru lebih kepada ketidakpuasan seorang istri akan anggapan tradisional tentang peran yang dikotakkan dengan gender yaitu istri begitu di tempatkan dibawah kontrol suami dan tidak diperlakukan sebagai mitra yang setara disbanding masalah dana pensiun yang bisa didapatkan oleh seorang istri.

Dari paragraf di atas, menurut penulis, faktor *jukunen rikon* selanjutnya adalah berubahnya pandangan dan kemandirian istri

Jepang merupakan Negara dengan angka kehidupan yang tinggi. Dalam *Nihon Keizai Shinbun* (2017), wanita Jepang pada tahun 2016 mempunyai harapan hidup rata-rata wanita adalah 87,14 tahun dan untuk pria adalah 80,98 tahun.

Dengan harapan hidup yang tinggi, perempuan menyadari bahwa mereka mempunyai cukup waktu untuk memperbaiki kehidupan mereka walaupun bercerai di usia tua (Yamashita, 1986: 416). Jadi, sekalipun mereka bercerai di usia tua, kemungkinan hidup mereka masih panjang. Mereka akan berpikir berulang kali jika harus hidup tidak nyaman bersama suami mereka sampai mati.

Dari paragraf di atas, harapan hidup yang tinggi menjadi faktor *jukunen rikon*.

Alasan lain yang menjadikan pasangan lebih mudah bercerai antara lain adalah kasus pasangan yang bercerai setelah April 2007 ketika sistem dana pensiun direvisi, pasangan sekarang dapat membagikan pensiun kesejahteraan untuk premi asuransi yang dibayar oleh suami selama periode pernikahan.

Pada perevisian dana pensiun 2007, seorang ibu rumah tangga penuh waktu mempunyai sebagian hak dari dana pensiun suaminya pada saat proses perceraian, sedangkan hukum lama tidak. Tapi bukan berarti istri serta-merta berhak mendapatkan setengah dari dana pensiun suami ketika bercerai. Jadi istri mendapat bagian uang pensiun suami sesuai dengan masa pernikahannya. Selain itu kedua pasangan harus setuju mengenai proporsi pensiun hari tua sesuai kesepakatan terutama suami karena suami adalah pemilik awal dana pensiun tersebut lalu pengadilan yang membuat keputusan akhir. Suami jelas berhak menerima dana pensiunnya secara penuh yang diperoleh sebelum tua. Tetapi jika istri bekerja, istri tetap tidak berkewajiban membagi dana pensiun dari tempatnya bekerja kepada suami. Jadi jangan terkejut jika dana pensiun yang diperoleh istri yang bekerja totalnya akan lebih banyak dari pada suami karena mendapat tambahan dari dana pensiun suami dengan proporsi yang telah disepakati.

Banyak perempuan yang cukup lama mentolerir stresnya karena harus memperhatikan orang tua. Fumie Kumagai (2015:3) menemukan meskipun sekarang keluarga utama berbeda dengan yang terdahulu dimana

terdiri tiga generasi di dalam rumah, sekarang justru hanya terdiri dari orang tua dan anak. Tetapi fakta menyebutkan adanya kecenderungan orang yang lanjut usia akan pindah di kemudian hari dalam perjalanan hidup dan tinggal bersama keluarga anaknya yang usia pernikahannya sudah matang. Dalam statistik dari *Bureau, MIAC 2014a*. (Dalam Kumagai, 2015: 33) menunjukkan bahwa perempuan lebih senang tinggal bersama anaknya dari pada dengan suaminya. Presentase perempuan yang senang tinggal bersama mertua sangat kecil. Ada banyak istri yang memutuskan bercerai pada saat yang sama dengan usia pensiun suami. Salah satu alasannya adalah karena istri berencana memulai kehidupan yang baru dengan memisahkan uang dari tunjangan pensiun.

Jadi, kesimpulannya, faktor-faktor yang mempengaruhi *jukunen rikon* adalah:

1. Tidak puas terhadap sikap pasangan
2. Anak sudah mandiri
3. Berubahnya pandangan dan kemandirian istri
4. Harapan hidup tinggi
5. Pembagian harta bersama
6. Lelah mengurus orang tua

Jadi pada intinya, ketika seorang istri mengajukan cerai, alasan yang paling sering terlontar adalah ketidakcocokan dalam kepribadian, diikuti dengan kekerasan dan pelecehan seksual, dan perselingkuhan.

Sangat sedikit yang menyatakan bahwa alasan utama bercerai adalah masalah financial.

E. Penelitian Relevan

Dalam penelitian ini, peneliti menggunakan penelitian yang sudah ada sebagai acuan. Penelitian yang digunakan sebagai acuan adalah skripsi dari mahasiswa Fakultas Ilmu Budaya Universitas Indonesia oleh dengan judul “Kaitan Antara Fenomena *Jukunen Rikon* Dengan *Nenkin Bunkatsu* di Jepang” Dalam Masyarakat Jepang Dewasa Ini” oleh Roslina Fauziah pada tahun 2012. Perbedaan antara penelitian tersebut dengan penelitian yang penulis teliti adalah penelitian oleh Roslina Fauziah berfokus pada bagaimana perkembangan sistem dana pensiun terkait dengan pembagian dana pensiun ketika bercerai dan peran dana pensiun bagi perempuan yang bercerai sementara, penulis fokus terhadap gambaran kasus-kasus perceraian di usia lanjut pada zaman *Heisei* .

Penelitian relevan yang ke dua adalah “Fenomena *Jukunen Rikon* (Perceraian di Usia Tua) Dalam Masyarakat Jepang Dewasa Ini” oleh mahasiswa Universitas Sumatra Utara yaitu Lora Juwita Situmorang pada tahun 2015. Perbedaan yang diteliti adalah pada penelitian tersebut Lora Juwita Situmorang menitik beratkan pada dampak dan upaya pemerintah menangani *jukunen rikon*. Sementara, penulis menganalisis faktor-faktor *jukunen rikon* yang dari gambaran kasus-kasus *jukunen rikon*.

BAB III

METODOLOGI PENELITIAN

Metodologi penelitian merupakan sekumpulan peraturan, kegiatan, dan prosedur yang digunakan dalam suatu penelitian. Pada bab ini penulis akan menjelaskan dengan rinci tentang metodologi penelitian yang digunakan penulis dalam penelitian *Analisis Jukunen Rikon* terhadap masyarakat Jepang yang mana meliputi metode penelitian, pengumpulan data, proses penelitian, objek penelitian, dan sumber data.

A. Metode Penelitian

Metode secara bahasa terdiri dari dua kata yaitu *meta* dan *hodos*. *Meta* berarti jalan, *hodos* berarti yang dilalui atau ditempuh. Dengan demikian metode dapat diartikan sebagai cara yang ditempuh atau dijalankan (Ibrahim,2011:203). Dalam penelitian maka metode dapat diartikan sebagai penelitian(Mardalis, 2014:24).

Lalu menurut Mardalis, penelitian sendiri dapat diartikan sebagai upaya dalam bidang ilmu pengetahuan yang dijalankan untuk memperoleh fakta-fakta dan prinsip-prinsip dengan sabar, hati-hati, dan sistematis untuk mewujudkan kebenaran (2014:14).

Dari definisi di atas, dapat ditarik kesimpulan definisi dari metodologi penelitian, yaitu sebagai suatu cara yang dilakukan sebagai upaya untuk

mendapatkan fakta-fakta dalam bidang ilmu pengetahuan dengan hati-hati, sistematis, untuk mewujudkan pada suatu kebenaran.

Mardalis mengatakan bahwa metode penelitian merupakan suatu metode ilmiah yang memerlukan sistematika dan prosedur yang harus ditempuh dengan tidak mungkin meninggalkan setiap unsur, komponen yang diperlukan dalam penelitian (2014:14).

Dalam penelitian ini penulis menggunakan metode penelitian deskriptif dengan pendekatan kualitatif. Menurut Ibrahim (2015:52), pendekatan kualitatif adalah cara kerja penelitian yang mengedepankan aspek pendalaman data demi mendapatkan kualitas dari hasil suatu penelitian. Dengan kata lain, *qualitative approach* adalah suatu mekanisme kerja penelitian yang mengandalkan uraian deskriptif kata, atau kalimat, yang disusun secara cermat dan sistematis, mulai dari menghimpun data hingga menafsirkan dan melaporkan hasil penelitian. Kemudian yang dimaksud metode penelitian deskriptif adalah penelitian yang dilakukan dengan menggambarkan, menjabarkan suatu fenomena yang terjadi pada masa penelitian yang dilakukan (Sutedi, 2009:49).

1. Waktu dan Tempat Penelitian

Penulis tidak dapat mencantumkan tempat penelitian dikarenakan penulis menggunakan pendekatan kualitatif dimana tidak ada batasan ruang. Waktu yang digunakan penulis kurang lebih selama tujuh bulan terhitung dari bulan Januari saat penentuan masalah penelitian hingga bulan Juli 2018.

2. Jenis Penelitian

Jenis penelitian yang digunakan penulis adalah penelitian dengan pendekatan kualitatif. Menurut Ibrahim, pendekatan kualitatif adalah cara kerja penelitian yang menekankan pada aspek pendalaman data demi mendapatkan kualitas dari hasil suatu penelitian (2015:52).

Pendekatan kualitatif yang penulis gunakan bersifat deskriptif di mana di dalamnya terdapat upaya mendeskripsikan, mencatat analisis dan menginterpretasikan kondisi-kondisi yang sekarang ini terjadi atau ada (Mardalis.2014:26).

B. Prosedur Penelitian

Penelitian adalah suatu rangkaian kegiatan ilmiah untuk keperluan data maupun menarik kesimpulan atas gejala-gejala tertentu. Dalam pembuatan skripsi yang baik dan benar tentu penulis harus meneliti sesuai prosedur. Prosedur yang dilakukan penulis adalah sebagai berikut:

1. Tahap awal

- a. Mencari informasi mengenai masalah sosial dan budaya yang terjadi di Jepang.
- b. Mengumpulkan informasi yang berhubungan dengan *jukunen rikon* berupa buku, artikel, jurnal, maupun data dari internet.
- c. Memilih referensi penelitian yang telah didapat dan mencari pembahasan yang sesuai dengan tujuan penelitian.
- d. Menentukan judul skripsi yang ingin diteliti.

- e. Penyusunan proposal

2. Tahap pelaksanaan

- a. Mencari dan mengumpulkan data-data yang berhubungan dengan sistem sosial, pernikahan Jepang, keluarga Jepang, dan perceraian di Jepang terutama perceraian lanjut usia melalui buku-buku, artikel, surat kabar, dan sejenisnya baik berupa fisik maupun melalui internet.
- b. Menerjemahkan sumber data yang berasal dari bahasa asing.
- c. Memilih data-data yang diperoleh, dan menetapkan data yang sesuai dengan pembahasan yang ingin diteliti.
- d. Melakukan analisa terhadap data objek.

3. Tahap penyelesaian

Tahap penyelesaian merupakan tahap terakhir dalam proses penelitian. Pada tahap ini penulis menarik kesimpulan dari hasil analisis yang dilakukan dari sumber data. Dari hasil penelitian tersebut, didapat jawaban dari rumusan masalah yang ada yaitu mengenai *jukunen rikon* yang telah diteliti.

C. Teknik Pengumpulan Data

Setiap penelitian pasti melakukan proses pengumpulan data dengan teknik-teknik pengumpulan data yang sesuai dengan penelitian yang diajukan. Sebuah penelitian dikatakan berhasil apabila data dapat dikumpulkan. Sebaliknya, jika data tidak dapat didapat atau tidak dapat

dikumpulkan, maka sebuah penelitian dipandang tidak berhasil alias gagal (Ibrahim, 2015:79).

Menurut Kurnia, dalam penelitian kualitatif, terdapat beberapa teknik pengumpulan data seperti observasi atau pengamatan, dokumentasi, wawancara, *interview*, dan lain-lain (2004:136). Teknik pengumpulan data yang penulis pakai adalah:

1. Metode pengamatan pustaka, merupakan metode yang membuat peneliti tidak perlu terjun langsung ke lapangan untuk melakukan penelitian sehingga penelitian dapat diselesaikan secara relatif lebih cepat (Ratna, 2010:197). Penulis meng*observasi* dari beberapa sumber yaitu buku, internet, dan sejenisnya.
2. Dokumentasi, yaitu teknik pengumpulan data yang tidak secara langsung ditujukan secara langsung kepada subjek penelitian, melainkan sebagai data pendukung yang sangat dibutuhkan oleh peneliti (Mulyana, 2004:195)

Dengan kata lain, teknik pengumpulan data yang dilakukan penulis adalah dengan cara membaca buku-buku yang terkait dengan objek penelitian. Selain itu penulis juga memperoleh data yang bersumber dari beberapa situs di internet yang berhubungan dengan masalah sosial *jukunen rikon*.

D. Teknik analisis data

Setelah mengumpulkan data maka langkah selanjutnya adalah analisis data. Teknik analisis data yang penulis gunakan dalam

penelitian ini adalah teknik analisis deskriptif kualitatif. Dengan ini penulis menggambarkan, melukiskan, dan memaparkan keadaan *jukunen rikon* pada masyarakat Jepang berdasarkan data-data yang penulis dapatkan sebelumnya sesuai dengan fakta yang penulis dapat. Selain gambaran tentang perceraian lanjut usia, penulis juga menelaah kembali faktor-faktor penyebabnya dengan menganalisa kembali tentang bagaimana kedudukan wanita Jepang di dalam keluarga, sistem pensiun, dan lainnya.

E. Sumber data

Sumber data dalam penelitian ini adalah literature-literatur yang berhubungan perceraian lanjut usia di Jepang seperti *Late Life divorce in Japan*, *Family Issues on Marriage, Divorce, and Older Adults in Japan*, *Modernization and Divorce in Japan*, *Woman and Family in Contemporary Japan*, dan beberapa artikel online yang berhubungan dengan kasus perceraian lanjut usia.

BAB IV

ANALISIS DATA

Pada bab ini penulis akan memaparkan data mengenai mengenai faktor-faktor apa saja yang menjadi faktor *jukunen rikon* terhadap data-data yang diambil dari jurnal, surat kabar atau redaksi *online*, forum, situs kantor pengacara, dan sejenisnya yang menjadi gambaran *jukunen rikon*. Adapaun analisis yang penulis paparkan adalah berdasarkan teori-teori yang terdapat pada bab ke dua yang mengacu pada sebuah kasus yang diambil dari berbagai referensi..

A. Gambaran *Jukunen Rikon*

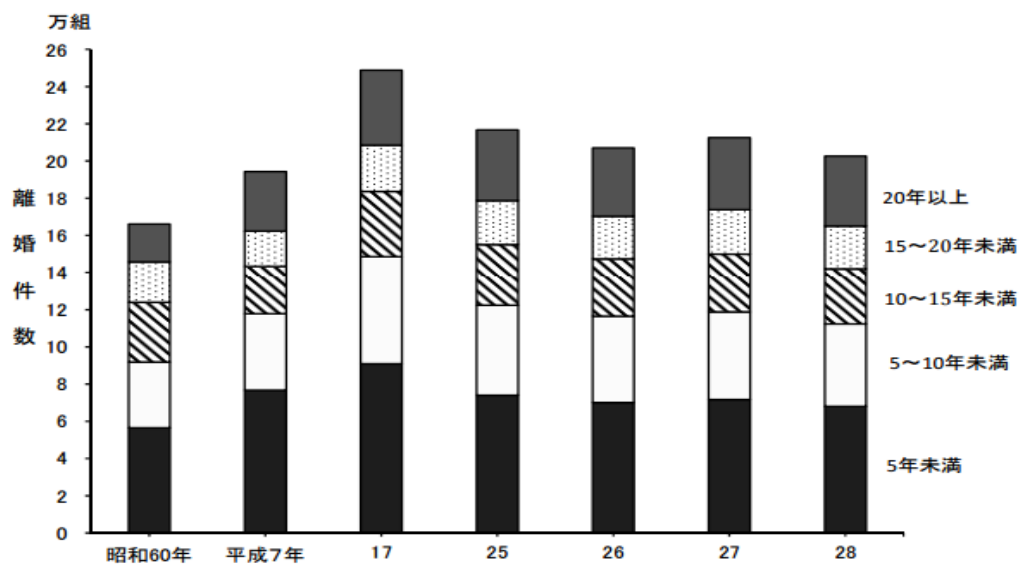
1. Mulai populer di zaman *Heisei*

Bisa dikatakan peningkatan kasus *jukunen rikon* paling mencolok jatuh pada *baby boomer* yang lahir antara 1947 dan 1949 dan pada periode *Heisei* usia pernikahan mereka sudah melebihi dua puluh tahun pernikahan (Kumagai,2015:129). Pada tahun-tahun awal era *Heisei* tidak setinggi saat ini tapi bisa dikatakan *jukunen rikon* mulai marak di era tersebut.

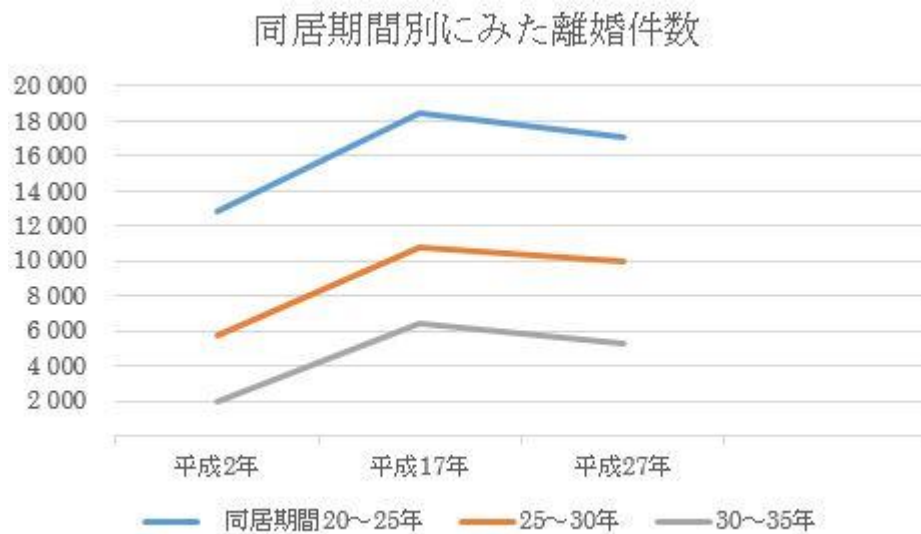
Kasus *jukunen rikon* mulai mencolok pada pertengahan 1990. Jumlah kasus perceraian dengan usia pernikahan lebih dari dua puluh tahun sebelum zaman *Heisei* pada tahun 1975 mencapai 6.810 kasus atau 5,7% dari total seluruh jenis kasus perceraian. Tetapi pada tahun 2002 statistik angka kasus perceraian meningkat secara signifikan

menjadi 15,7% lalu pada tahun 2010 menjadi 15,9%. Menurut sebuah artikel online di Jepang, kasus perceraian lanjut usia heisei 28 mencapai 17% dari seluruh jumlah perceraian yang terjadi. Jika diakumulasikan, dari total 216.805 pasangan yang bercerai, 37.604 di antaranya justru terjadi pada pasangan-pasangan yang usia pernikahannya di atas dua puluh tahun.

図 12 同居期間別離婚件数の年次推移



Grafik yang bersumber dari Kementerian Kesehatan, Perburuhan dan Kesejahteraan Ringkasan Statistik Dinamika Populasi Bulanan Total Tahunan (Perkiraan) di Heisei 28 di atas, warna abu-abu paling atas menunjukkan bahwa diantara total angka yang cukup tinggi, skala *jukunen rikkon* pada jaman *Heisei* pada beberapa tahun belakangan ini (dihitung dari tahun 2017) cenderung stabil.



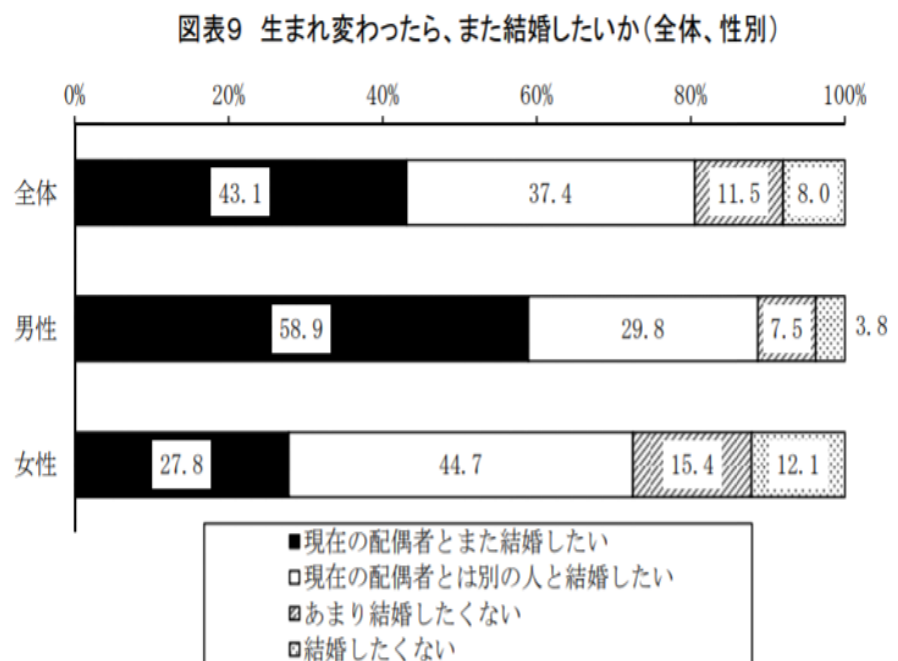
Grafik di atas adalah data Heisei 2 ke Heisei 20. Terlihat bahwa pasangan yang hidup bersama selama lebih dari 25 tahun bercerai paling banyak dalam usia pernikahan 20 tahun-25 tahun.

2. Lebih banyak wanita sebagai penggugat

Jukunen rikon lebih banyak diawali oleh istri yang menggugat. Mengapa suami lebih jarang melakukan *jukunen rikon* adalah karena pria paruh baya dan yang lebih tua bergantung pada istri mereka sehingga jarang terjadi perceraian di usia yang matang (Jun Yoshida 2014:2). Seorang suami yang tak bisa melakukan pekerjaan rumah tersebut menambah beban pekerjaan rumah tangga bagi sang istri. Terlepas kekurangan dan kelebihan dana pensiun suami, setidaknya istri mempunyai hak untuk ikut mendapat dana pensiun suami. Akan lebih mudah untuk bercerai setelah pensiun karena dulu mereka benar-benar harus bergantung dari gaji suami (2014:3).

Perceraian ini lebih sering diprakarsai oleh wanita. Hal tersebut Nampak pada survey yang dilakukan oleh Sekretariat Mahkamah Agung Jepang tahun 2013 yang menyatakan bahwa inisiatif perceraian didahului oleh perempuan pada tahun 2017 mencapai angka 72,4 % dan menurut Otani, hal tersebut kemungkinan akan terus meningkat di kemudian hari.

Ketidak puasan terhadap suami yang sudah pensiun yang dinyatakan para istri merupakan alasan yang sah untuk perceraian lanjut usia. Namun dalam kasus perceraian dengan kesepakatan bersama, pasangan tidak perlu menyatakan alasan perceraian. Berbeda dengan perceraian melalui prosedur peradilan, pasangan harus menyatakan alasannya bercerai.



Grafik di atas merupakan hasil survey pada tahun 2015 yang menanyakan pada pasangan lansia sebuah pertanyaan “jika mereka dilahirkan kembali, apakah ingin menikah lagi?” dan hasil survey menunjukkan bahwa perempuan ingin menikah tetapi tidak dengan pasangannya saat itu lebih banyak dari pada yang menikah dengan pasangannya sendiri. Sedangkan lelaki lebih banyak yang ingin menikah dengan istrinya saat itu. Hal ini bisa menjadi referensi bahwa sebenarnya wanita tidak terlalu nyaman dengan pasangannya sendiri.

B. Paparan Data

Dalam meneliti kasus *jukunen rikon* ini, peneliti meneliti sebanyak 20 data. Pada setiap satu data yang penulis teliti, bisa terdiri dari satu faktor atau lebih.

Data	Sumber
Data 1	https://dot.asahi.com/wa/2017082500054.html?page=2 akses 2017.8.30 07:00
Data 2	http://komachi.yomiuri.co.jp/t/2012/1112/553788.htm Akses 2012-1-1
Data 3	http://komachi.yomiuri.co.jp/t/2012/1112/553788.htm Akses 2012-1-1
Data 4	https://30kekkon.com/answer/jukunennrikon-koukai.html 2017/08/30
Data 5	https://dot.asahi.com/wa/2017082500054.html

	Akses 2017.8.30
Data 6	https://detail.chiebukuro.yahoo.co.jp/qa/question_detail/q13185119 513 akses01-23-2018
Data 7	(https://mikle.jp/threadres/115358/) 07/03/28 00:54
Data 8	https://www.theguardian.com/news/2007/oct/18/internationalnews Akses 18-10-2007/ 17.31
Data 9	https://dot.asahi.com/wa/2018041300006.html?page=2 Akses 2018.4.16
Data 10	https://detail.chiebukuro.yahoo.co.jp/qa/question_detail/q14698593 39 Akses 2011/8/2621:55:07
Data 11	https://japantoday.com/category/features/kuchikomi/more-senior-partners-uncoupling Akses 2013-3-4
Data 12	https://books.google.co.id/books?id=yB8cBQAAQBAJ&pg=PT80&lpg=PT80&dq=yamashita+katsutoshi++divorcejapanese+stye+pdf&source=bl&ots=fSVgT8KXDq&sig=wokD4SekWubYoeMM4OGwwV-Mbxk&hl=ban&sa=X&ved=2ahUKEwje3eaM_bzcAhXZR30KHR

	L_A2IQ6AEwAHoECAAQAQ
Data 13	https://lsa.umich.edu/women/people/core-faculty/allison-alexey/_jcr_content/file.res/AlexyCV.pdf Akses 2007
Data 14	http://komachi.yomiuri.co.jp/t/2017/0218/794569.htm Akses 2017-02-18
Data 15	http://www.washingtonpost.com/wp-dyn/content/article/2005/10/16/AR2005101601145.html?noredirect=on Akses 17-10-2005
Data 16	https://onayamifree.com/threadres/2678556/ Akses 18/07/18
Data 17	https://www.fukuoka-ricon-law.jp/296/296006/
Data 18	https://www.sodan-lp.jp/board/money/detail/1370591 Akses 2017.08.27
Data 19	https://www.nytimes.com/2003/03/25/world/as-japan-s-women-move-up-many-are-moving-out.html Akses 25/03/2003
Data 20	https://www.irishtimes.com/news/japan-s-wives-ready-to-divorce-as-workaholic-husbands-retire-1.998342

	akses 04/05/2006
--	----------------------------------

C. Analisis Data Faktor-Faktor *Jukunen Rikon*

Penulis akan menganalisis faktor-faktor *jukunen rikon* berdasarkan teori bab ke dua. Namun secara umum, faktor-faktor yang mempengaruhi adalah ketidakpuasan terhadap sikap pasangan, anak sudah mandiri, berubahnya pandangan dan kemandirian istri, harapan hidup yang tinggi, pembagian harta bersama, lelah mengurus orang tua.

Data 1

(<https://dot.asahi.com/wa/2017082500054.html?page=2> :2017.8.30 07:

00)

19 年前に 65 歳で離婚したマンション管理人で戦争体験を伝える太田弥三郎さん（仮名・84 歳）は、「妻とほとんど会話がなかった」と振り返る。25 歳で 3 歳年下の妻と見合い結婚したのは、肝臓がんで余命半年と宣告された母親を安心させたかったからだ。「妻は私の母親を看取ってくれた。大変だったと思います」。だが妻にねぎらいの言葉を口にしなかった。母親を亡くしてすぐに神奈川県で小さな製紙会社の経営に乗り出す。長女と長男が生まれると、夫は働き、妻は家事と子育てと役割分担が決まった。だが、55 歳の時に会社が倒産。会話が乏しく、趣味も異なる。別れは必然だったのか。飲食店で働いて自活した妻は、10 年間の別居の後に、離婚届を送ってきた。「長女とは疎遠になりましたが、58 歳になる長男とは交流があります。孫は可愛いです」

Yasaburo Ota (84 tahun), seorang manajer apartemen yang bercerai pada usia 65 tahun sebelum 19 tahun yang lalu, berkata, "Saya memiliki sedikit percakapan dengan istri saya." Saya berusia 25 tahun ketika saya menikah dengan istri saya yang berusia 3 tahun lebih muda

karena saya ingin meyakinkan ibu saya yang divonis setengah tahun dengan kanker hati. "Istri saya merawat ibu saya dan saya pikir dia dalam masalah." Tetapi saya tidak mengatakan kata-kata saya tersebut kepada istri saya. Begitu Yasaburo Ota kehilangan ibunya, ia memulai pengelolaan sebuah perusahaan kertas kecil di Prefektur Kanagawa. Ketika anak perempuan tertua dan putra sulung lahir, suami bekerja dan sang istri memutuskan penugasan peran serta urusan rumah tangga dan pengasuhan anak. Namun, perusahaan bangkrut pada usia 55 tahun. "Saya memiliki percakapan yang buruk dan hobi saya berbeda." Apakah Yasaburo Ota mengatakan perpisahan itu tidak terhindarkan? Istrinya, yang bekerja di restoran dan hidup mandiri, mengiriminya pemberitahuan perceraian setelah 10 tahun berpisah. "Meskipun saya jadi merasa asing dengan putri sulung, saya bersama dengan putra sulung saya yang berusia 58 tahun. Cucu saya lucu."

Analisis:

Dari kasus di atas, secara umum, Yasaburo yang merupakan seorang manajer apartemen bercerai pada umur 65 tahun karena istrinya meminta cerai. faktor *jukunen rikonna* adalah dua faktor yaitu tidak puas dengan sikap pasangan yaitu sikap Yasaburo yang kurang berkomunikasi dengan istri bahkan untuk sekedar berterima kasih terhadap istri yang telah mengurus rumah tangga. Hal tersebut sesuai dengan teori Jun Yoshida (2014:3) tentang maskulinitas pria yaitu salah satunya adalah laki-laki enggan menyatakan terima kasih

kepada istri karena dinilai kurang jantan sehingga mempengaruhi kedekatan pasangan. Faktor ke dua adalah perubahan pandangan perempuan. Istri Yasaburo adalah wanita yang mandiri secara ekonomi seperti pendapat Allison tentang istri yang bekerja menganggap tidak butuh suaminya berdampak pada perceraian ini.

Data 2

(<https://www.theguardian.com/news/2007/oct/18/internationalnews>:18-10-2007/ 17.31)

When Yuji Tanaka proposed to his wife, he promised to help with housework and childrearing, and to talk through any problems before they became insurmountable. But married life proved very different. "Until our second child was born, I worked as a marine biologist and was often away on business trips for at least two weeks at a time," says Tanaka, 60, who sought Ikeuchi's advice. "I was away from home about 100 days a year. My assignments included field studies in the summer, so I was spent 14 straight summer holidays away from my family. On top of that I was a union official, so my wife was practically a single mother, raising our children on her own." Though he tried as often as possible to cook and get their children ready for school, Tanaka and his wife steadily grew apart, and never discussed family matters on the few occasions they ate dinner together. Then, on the way home from a rare trip abroad to celebrate their silver wedding anniversary, his wife told him she was having an affair. "I got depressed and started seeing a therapist, who prescribed me antidepressants," he said. "After a year my doctor gave me permission to start divorce proceedings. My wife refused to admit she was an adulterer, because as far as she was concerned our marriage had effectively ended a long time ago."

Ketika Yuji Tanaka melamar istrinya, dia berjanji akan membantu istrinya mengerjakan pekerjaan rumah tangga, mengurus anak, dan akan membicarakan masalah apapun sebelum masalah tersebut menjadi hal yang tidak bisa di atasi. Tapi kehidupan pernikahan sangat

jauh berbeda. "Sampai anak kedua kami lahir, saya bekerja sebagai seorang ahli biologi kelautan dan sering pergi untuk perjalanan bisnis selama setidaknya dua minggu pada suatu waktu", kata Tanaka yang berumur 60 tahun yang mencari saran Ikeuchi ini." saya jauh dari rumah, sekitar 100 hari dalam setahun. tugas saya termasuk studi lapangan di musim panas, sehingga saya menghabiskan 14 liburan musim panas sehingga jauh dari keluarga saya. Apalagi saya adalah seorang pekerja serikat, jadi istri saya menjadi seorang ibu tunggal, membesarkan anak-anak kami sendiri. "Meskipun ia mencoba sesering mungkin untuk memasak dan mendapatkan anak-anak mereka siap untuk sekolah, Tanaka dan istrinya terus tumbuh terpisah, dan tidak pernah membahas masalah keluarga pada beberapa kesempatan mereka makan malam bersama. Kemudian, dalam perjalanan pulang dari perjalanan yang langka ke luar negeri untuk merayakan ulang tahun pernikahan perak, istrinya mengatakan kepada Yuji Tanaka bahwa dia berselingkuh. "Aku tertekan dan mulai mencari seorang terapis, yang member saya resep antidepresan," katanya. "Setelah setahun dokter saya memberi saya izin untuk memulai proses perceraian. Istri saya menolak untuk mengakui bahwa dia selingkuh karena sejauh dia berpikir bahwa perkawinan kami sudah jelas berakhir sejak lama. "

Analisis:

Yuji Tanaka adalah seorang suami yang bekerja sebagai ahli biologi kelautan berumur 60 tahun yang dicerai oleh istrinya, ibu rumah tangga penuh. Faktor-faktor yang mempengaruhi kasus di atas adalah ketidakpuasan dengan sikap pasangan yaitu adanya perselingkuhan. Perselingkuhan tersebut dilakukan oleh sang istri yang disebabkan oleh ketidakpuasan istri terhadap pasangan yang tidak mempunyai waktu untuk bersama keluarga. Seperti teori Yoshida, suami memang harus berdedikasi pada pekerjaannya membuat waktu untuk memperdalam hubungan keluarga sangat kurang, karena maskulinitas suami digambarkan bekerja keras di tempat kerja, dan seterusnya. Ikeuchi, Ito, dan Iwai pun sudah membuat 8 karakteristik pernikahan yang rentan terhadap *jukunen rikon*, antara lain renggangnya hubungan emosional antar pasangan dan perselingkuhan.

Data 3

(<http://komachi.yomiuri.co.jp/t/2012/1112/553788.htm> :2012-1-1)

こんにちは。私は40代後半、結婚期間20年間で終了、子ども男の子2人（現在高1と中1）臨時職員で賃金UPなんて毎年望めず、多
いな家計の足しにはならない、母子家庭手当と児童手当を含めて親子
3人で築40年以上の外観、内装の汚さにもうあきらめるしかない団
地にすんで2年目です。養育費もたしかなものではなく、毎月の生活
も不安感は常に一緒。でもね、ぶるぶるさん。離婚した事に、まっ
ったく後悔はないの。本気で自分に見つめあって出した答えだから。
もっと早くに答えを出せば・・・と後悔はしてる1歳でも自分が若け
れば、仕事の選択肢は広がっただろうと。離婚に躊躇い、我慢してで
も結婚生活を選ぶのも、離婚して新しい人生の路を踏み出すのも、大
変ですよ。楽な選択はないですよ。しかし、自分で一大事が決めれた
って事が色んな事で折れそうになる心に力をくれてる。変な自信家よ。

Saya berusia akhir 40an. Usia pernikahan saya berakhir di usia pernikahan 20 tahun. Anak saya dua (tingkat atas 1, menengah 1) Dengan staff sementara, saya tidak bisa mengharap upah saya setiap tahun, Eksterior dan interior lebih dari 40 tahun yang dibangun oleh orang tua dan anak-anak termasuk tunjangan keluarga ibu dan anak dan tunjangan anak. Ini adalah tahun ke-2 saya tinggal di apartemen karena saya hanya harus bebas dari polusi rumah saya. Biaya dukungan anak juga tidak pasti, hidup setiap bulannya juga kecemasannya selalu bersama. Tapi saya sama sekali tidak menyesal dengan perceraian. Sejujurnya, karena aku melihat pada diriku sendiri, itulah jawabannya. Jika memberi jawaban lagi dengan cepat, Saya menyesal jika saya menjawab lebih cepat. Ketika pada usia 1 tahun, jika masih muda, pilihan pekerjaannya akan sangat luas. Ragu dengan perceraian, tapi jika memilih kehidupan pernikahanpun mesti sabar, kita melangkah maju ke jalan sebagai seseorang yang baru jika bercerai. Melelahkan kan. Tidak ada pilihan yang menarik. Tapi, dengan hal-hal yang diputuskan oleh diri sendiri. Seperti memberi kekuatan kekuatan hati untuk memutuskannya. Kepercayaan diri yang aneh.

Analisis:

Tokoh yang namanya disamarkan di atas adalah seorang istri yang bercerai pada usia pernikahan 20 tahun. Faktor yang mempengaruhi perceraian usia matang tidak begitu dijelaskan secara lengkap namun

istri menyatakan bahwa ia lelah jika mempertahankan pernikahannya dan merasa mendapat kekuatan jika berera artinya bisa kita masukkan ke dalam faktor perubahan pandangan istri yang sudah berani mengambil keputusan untuk bercerai.

Data 4

(<https://30kekkon.com/answer/jukunennrikon-koukai.html> :2017/08/30)

での離婚でしたので後悔はありません。熟年離婚する際の一番の問題は経済的な事だと思います。私は離婚の際、裕福だったわけではありませんが、問題解決の糸口は見つけていました。それを見出せたからこそ離婚したと言えます。無論、離婚してから毎日努力し研究しました。現在、今ほど経済的に恵まれた時期はないと言えます。経済的にも自立できなくて離婚できないと思う方はまだ本気じゃないのですよ。目と耳を最大限使って世間の動向にアンテナを張っていれば必ず突破口は見出せます。40代の方でしたらまだまだ計り知れないほどの機会があります。残りの人生を納得いくように生きてください。私自身はオーストラリアに永住ビザを申請しようと考えています。とてもわくわくします。なんとなく離婚したいと思っていて離婚した人は問題を抱えると思います。用意周到に事を運んで離婚し、経済的にも更に水準を上げるという強い意気込みで事にあたってください。元配偶者は現在癌になり足も不自由だそうです。気の毒ではありますが自業自得とも思います。

Karena saya bercerai setelah berpikir lebih dari 30 tahun, saya tidak menyesal. Saya pikir masalah terbesar dalam perceraian yang matang adalah ekonomi. Bukan berarti saya kaya ketika saya bercerai, tetapi saya sudah menemukan pemecahan masalah. Dapat dikatakan bahwa anda bercerai karena menemukan hal itu. Setelah bercerai, setiap hari termotivasi dan menelintinya. saat ini, dapat dikatakan bahwa tidak ada waktu yang diberkati secara ekonomi seperti sekarang. Mereka yang

berpikir bahwa mereka tidak dapat bercerai jika belum mandiri dalam ekonomi, berarti masih belum sungguh-sungguh. Selama Anda menggunakan mata dan telinga sebanyak mungkin untuk menjaga antena hingga tren dunia, Anda dapat menemukan pemecahannya. Jika Anda berusia empat puluhan, Anda memiliki banyak kesempatan yang tak terhitung. Hiduplah untuk meyakinkan sisa hidup anda. Saya berencana untuk mengajukan visa tinggal permanen ke Australia. Saya sangat gembira. Dengan orang yang berpikir bahwa mereka yang bercerai berpikir entah bagaimana ingin bercerai itu mereka memiliki masalah. Bersiaplah untuk benar-benar bercerai, semangat yang kuat untuk menaikkan level lebih jauh secara ekonomi. Tampaknya mantan pasangan sekarang kanker kaki dan tidak nyaman. Meskipun saya merasa menyesal, saya juga berpikir bahwa saya mendapat apa yang saya lakukan.

Analisis:

Kasus di atas adalah seorang istri yang bercerai kurang lebih dalam usia pernikahan kurang lebih dari 30 tahun. Penulis hanya menemukan perubahan pandangan dan kemandirian istri sebagai faktor perceraian oleh istri seperti menurut Sugimoto (172), yang menyatakan bahwa perceraian merupakan bentuk keberanian.

Data 5

(<https://dot.asahi.com/wa/2017082500054.html>:2017.8.30).

宮崎県出身の風間康子さん（仮名・62歳）は高校卒業後に上京して健康食品会社の事務職に就く。27歳のバレンタインデーの夜に、同じ年の広告会社の男性と出会い、その1年後に勢いで結婚。だが風間さんの結婚生活は、姑（しゅうとめ）の一言で揺らぎ始めた。「結婚後すぐに夫が転職し、川崎市のマンションで新婚生活がスタートしました。東京都港区に住む夫の実家と距離を置いたのは、姑が私の宮崎なまりを馬鹿にしたからです。そのとき夫はまったくかばってくれませんでした」方言をからかわれたことで、生まれも育ちも存在も否定された気がした風間さんは、孤独感が募っていく。だが、その姑を引き取り、介護して看取（みと）り、その間に3人の娘を育てあげる。ところが夫は「仕事があるから」と介護も育児も協力してくれなかった。「一番つらかったのは、産後に友達の家で休養していたのに、夫が一度も訪ねてこなかったことです。家に帰っても、一言のねぎらいもありませんでした」産後に夫の優しさが足りないために、ゆるやかに破綻（はたん）していくケースは、何も熟年世代に限ったことではない。育児中の妻を無視するような夫ならなおさらだ。「『仕事があるから』が口癖の夫は子供の悩みも聞きませんでした。家のローンを払うために夫婦を続けている感じでした」夫が女性と連絡を取り続けていたことを知った風間さんは、44歳の時に長女15歳、次女12歳、三女9歳を置いて家出してみたが、仕事が見つからず、子供のことも気になり、離婚を断念して家に戻る。だが、長女の進路を巡り大げんかし、再び離婚を決意。45歳でヘルパーの資格を、その後、介護福祉士の資格を取得し、58歳で離婚した。「この人とずっと生きていけるか。60歳を前に出した答えはノーでした。尊敬もなければ、感謝の言葉もなかった夫婦でした」

Yasuko Kazama (Kana / 62 tahun) yang lahir di Prefektur Miyazaki pergi ke Tokyo setelah lulus dari sekolah menengah dan mendapat pekerjaan di perusahaan makanan kesehatan. Pada malam Hari Valentine yang berusia 27 tahun, saya bertemu dengan seorang pria dari sebuah perusahaan iklan pada tahun yang sama dan menikah dalam setahun setelah itu. Namun, kehidupan pernikahan Nyonya Kazama mulai terguncang dengan kata-kata ibu mertua. Pekerjaan suami berubah segera setelah menikah, kehidupan menikah di mulai di apartemen kota Kawasaki. Dengan jauhnya Tokyo dengan keluarga suami yang tinggal di Minato, ibu mertua mengejek aksen Miyazaki

saya. Saat itu suami saya sama sekali tidak membantu". Dengan digoda dialeknya, Kazama yang merasa bahwa kelahiran, kehidupan, dan keberadaannya ditolak merasa kesepian. Namun ia tetap merawat ibu mertua itu, merawatnya, peduli dengan perawatannya, dan mengasuh tiga anak perempuan selama waktu itu. Namun, suaminya berkata "saya ada pekerjaan", dia tidak bekerja sama atau membantu dalam hal perawatan dan pengasuhan. "Yang paling menyakitkan adalah walaupun saya beristirahat di tempat teman setelah melahirkan, suaminya yang tidak datang untuk mengunjungi barang sekali. Bahkan pulangpun, tidak ada kata apresiasi ". Dalam kasus kegagalan yang bertahap karena kurangnya kebaikan suami setelah istri melahirkan, tidak ada yang terbatas pada generasi dewasa. Khususnya bagi suami yang mengabaikan istri yang membesarkan anak. "Suami saya yang berbicara saya ada kerjaan tidak mendengar masalah anak saya, rasanya saya seperti demi membayar pinjaman rumah saya harus terus berpasangan dengannya". Suaminya tetap menghubungi wanita itu, pada saat 44 tahun, anak perempuannya 15 tahun, putri kedua 12 tahun, usia putri ketiga 9 tahun, dia mencoba untuk lari dari rumah dan membawa anaknya. Karena tidak mendapat pekerjaan, dia khawatir dengan anaknya dan kembali ke rumah dengan mengabaikan perceraian. Namun, saya memutuskan untuk bercerai lagi, setelah lama melewati putri sulung saya. Pada usia 45 Ia memenuhi syarat sebagai pembantu, dan kemudian mendapat kualifikasi sebagai pekerja

perawatan, dan bercerai pada usia 58 tahun. Apakah saya bisa hidup selamanya dengan orang ini, jawaban yang saya berikan 60 tahun lalu tidak, dia adalah pasangan yang tidak menghormati saya, tidak ada kata-kata terima kasih

Analisis:

Yasuko Kazama merupakan seorang istri berumur 62 tahun yang menceraikan suaminya, seseorang yang bekerja di perusahaan iklan. Faktor-faktor yang mempengaruhi cukup kompleks, yang pertama yaitu lelah mengurus orang tua. Ibu mertua bertingkah buruk pada sang istri padahal menurut Kumagai (2015,3) banyak perempuan yang cukup lama mentolerir stresnya karena harus memperhatikan orang tua. Namun jelas hal itu menjadi pemicu perceraian. Yang ke dua adalah ketidakpuasan dengan sikap pasangan. Suami Kazama adalah pecandu judi menurut Kumagai, pecandu judi dan renggangnya hubungan antar pasangan juga memicu perceraian lanjut usia. Faktor yang ke tiga adalah anak sudah mandiri. Kazama menceraikan suaminya setelah anak-anaknya mandiri. Awalnya Kazama nampak harus kembali mempertahankan pernikahan karena kesulitan ekonomi sehingga demi anaknya, dia kembali. Hal tersebut didukung oleh teori menurut Emiko dalam Yoshida (2014) salah satu karakteristik keluarga modern adalah berpusat pada anak. Anak memiliki fungsi penting terhadap keluarga, sehingga demi anak istri melakukan perannya. Ada juga istilah "*ko wa*

Kasugai” yang berarti anak adalah sebuah ikatan antara orang tuanya, artinya orang tua akan menjaga pernikahan mereka namun ketika anak-anak telah meninggalkan rumah, orang tua akan mengalami transisi. Mereka yang tidak dapat mengatur dinamika pernikahan mereka dan akan menghadapi pernikahan di akhir usia. Jadi setelah tidak ada anak atau anak telah mandiri, mereka bercerai.

Data 6

(https://detail.chiebukuro.yahoo.co.jp/qa/question_detail/q1318511951
3:01-23-2018)

私は56歳で現在も、その当時もサラリーマンです。そして私は50歳にて離婚しました。家内は7歳年下当時43歳です。婚姻期間は約20年です。弁護士を介入した民事裁判にて離婚に至りました。最終は協議離婚の形を取りましたが本題ですが、20年間の内助の功ではないですが、私の年金需給基礎年金の半分50%だったと思いますが、元家内に徴収される様に相手側の弁護士より書面にて交わされました。

Saya berusia 56 tahun dan pada waktu itu adalah seorang *salary man*.

Dan saya bercerai pada usia 50 tahun. Istri saya 7 tahun di bawah saya, yaitu berumur 43 tahun. Periode pernikahan adalah sekitar 20 tahun.

Saya bercerai pada sidang perdata yang melibatkan seorang pengacara.

Akhirnya memutuskan bentuk perceraian *kyougi rikon.*, meskipun itu adalah subject utamanya, bukan berarti istri yang selama 20 tahun membantu, setengahnya 50% dari pasokan pensiun saya, dan menuntut dasar pensiun, yang dipungut atas dasar istri saya Itu ditukar dalam bentuk tertulis oleh pengacara.

Analisis:

Tokoh yang bercerai pada periode pernikahan 20 tahun tersebut melakukan pereraian *kyogi rikon*. Suaminya merupakan seorang *salary man* Poin utamanya adalah pembagian harta bersama yaitu dana pensiun suami sebagai faktor yang mempengaruhi *jukunen rikon*.

Data 7

(<https://mikle.jp/threadres/115358/> :07/03/28 00:54)

はじめまして。熟年離婚はやっぱり不安ですか？私は 22 歳 20 歳の子供（成人ですね）が居ますが 永い別居生活経過して、去年離婚しましたよ。暴力が怖く復縁は無理でした、トラウマ残ってますが、開放されました。いくら経済力あってもビクビクして暮らすのはもう嫌ですね。

Senang bertemu denganmu. Apakah Anda masih khawatir tentang perceraian lanjut usia? Saya memiliki seorang anak berusia 22 tahun dan 20 tahun (orang dewasa) tetapi saya telah menjalani kehidupan yang berumur panjang, saya bercerai tahun lalu. Saya takut kekerasan dan tidak mungkin untuk menyembuhkannya, meskipun trauma tetap ada. Tidak peduli seberapa besar kekuatan ekonomi itu, saya tidak ingin terus ketakutan selama hidup.

Analisis:

Tokoh adalah orang yang menyatakan perceraian usia matangnya. Faktor yang mempengaruhi *jukunen rikon* pada kasus di atas adalah ketidakpuasan terhadap pasangan yaitu berupa kekerasan seperti pernyataan Kumagai yaitu ada ada tujuh hal yang menjadi indikasi sebuah keluarga akan bercerai pada usia pernikahan yang matang. Salah satu poinnya adalah kekerasan.

Data 8

(<https://www.theguardian.com/news/2007/oct/18/internationalnews:18>

-10-2007/ 17.31)

Toshiko Yamada endured her husband's womanising and workaholism in silence for all of their 35 years of marriage. Now, as they near retirement, she is preparing to divorce him. But not until she has secured a "reward" for her troubles. For Yamada, a softly spoken 62-year-old, a modest windfall would be no less than she deserves. "I never once asked for money for the whole time we were married," she told Guardian Unlimited in an interview at her lawyer's office. "I never complained, even though I knew he was having an affair. My friends used to say, 'Why don't you divorce him?' but I always thought that as he got older he would stop being unfaithful. And before I knew it 35 years had passed."

Toshiko Yamada menanggung suami yang kecenderungan wanita dan gila kerja diam selama mereka menikah selama 35 tahun. Sekarang mereka mendekati usia pensiun dan dia bersiap untuk menceraikan suaminya. Namun tidak sampai untuk mendapatkan bonus dari masalahnya. Bagi Yamada, yang berusia 62 tahun dengan lembut berkata bahwa sebuah rejeki sederhana tidak akan kurang dari yang dia lakukan selama ini. dia tidak pernah meminta uang selama mereka menikah, katanya kepada *Guardian Unlimited* dalam sebuah wawancara di kantor pengacaranya. Aku tidak pernah mengeluh, meskipun aku tahu dia berselingkuh. Teman-temanku sering berkata, 'Mengapa kamu tidak menceraikannya?' tetapi saya selalu berpikir bahwa ketika dia semakin tua dia akan berhenti menjadi tidak setia. Dan sebelum saya tahu itu sudah berlalu 35 tahun."

Analisis:

Toshiko Yamada adalah seorang istri dengan usia pernikahan 35 tahun. Ia sudah bersiap untuk menceraikan suaminya yang sebentar lagi akan pensiun. Bisa dilihat bahwa faktor utama yang mempengaruhi perceraian di atas adalah ketidakpuasan terhadap sikap pasangan karena Yamada mencoba bertahan berharap suaminya akan berhenti berselingkuh. Tapi ternyata suaminya tidak berubah. Karena menurut Kumagai, perselingkuhan akan mengindikasikan pernikahan yang bercerai di usia matang. Kemudian faktor pembagian harta bersama juga mempengaruhi karena Toshiko berstatement “*a modest windfall would be no less than she deserves.*”, yang berarti ia tahu bahwa ia akan mendapat bagian dari dana pensiun tersebut.

Data 9

(<https://dot.asahi.com/wa/2018041300006.html?page=2> : 2018.4.16)

横浜市在住の会社員、加藤武司さん（仮名・59歳）。30年以上連れ添ってきた3歳年下の専業主婦の妻と昨年、離婚した。離婚を切り出したのは、夫である武司さんのほうからだ。「これから先、30年は生きる。人生まだまだこれからと考えると、妻と一緒にじゃないほうが幸せだと思ったんです」結婚は26歳のとき。当初は仲の良い夫婦で、2人の子どもにも恵まれた。だが、下の子の小学校入学を機に、妻が「教育費の足しに」とパートに出始めてから、夫婦関係が変わってきた。家にいるときの妻は、「パートで疲れてる」と言ってイライラ。ちょっとしたことで、加藤さんに対して怒鳴り散らすようになり、子どもにもきつく当たるようになった。子どもが高校を卒業すると妻はパートを辞めたが、すでに夫婦関係は冷え切っていて、同じ部屋にいてもろくに会話もしないのが当たり前になっていた。「妻は僕に無関心で、食事も別々。家にいても安らげず、居場所がない日々でした」離婚の決め手になったのは、2年前、加藤さんが病気を患ったときのことだ。1カ月ほどの入院で、妻が見舞いに来たのは一度だけ。病室に顔を見せたほんの5分ほどの間に妻の口から出たのは「入院費用がかさむ」「早く良くなってくれない

と、お金が心配」というそっけない言葉だけ。老後を目前に控えた病身にはこたえた。「妻にとって僕は、もはや人生のパートナーではなく、ただの“金づる”でしかないのだと実感しました」子どもは2人とも独立し、残る人生は妻と2人で歩む。入院時の妻の対応を見れば、年とともに体が弱ってきても「お金がかかるから、早く死んでほしい」と思われ、放置されてもおかしくない。「妻がいないほうが幸せだ」という思いが強くなった。弁護士に相談し、すぐに家を出てアパートを借りた。離婚を突き付けられた妻は逆上したが、家は妻に渡し、他の財産は全て半分に分けることで合意。1年半の別居期間を経て、離婚が成立した。

Takeji Kato, seorang karyawan yang tinggal di Kota Yokohama (nama samaran · 59 tahun). Takeji bercerai tahun lalu dengan istrinya, seorang ibu rumah tangga yang 3 tahun lebih muda yang sudah bersama selama lebih dari 30 tahun. Takejilah yang memutuskan untuk bercerai, “Mulai sekarang saya akan hidup 30 tahun. Saya pikir saya akan lebih bahagia jika tidak bersama dengan istri saya”. Kami menikah ketika berumur 26 tahun. Sebenarnya kami pasangan yang baik dan dikaruniai dua anak. Tapi hubungan kami berubah sejak anaknya masuk sekolah dasar dan dia ikut membiayai biaya pendidikan. Ketika di rumah istrinya selalu mengatakan dengan cara menjengkelkan bahwa dia lelah. Dia mulai berteriak pada Kato. Terhadap anak-anak juga semakin ketat. Setelah anak lulus, istrinya berhenti bekerja. Tapi hubungan mereka sudah terlanjur dingin dan tidak bisa berbicara dengan baik dalam satu ruangan. Istri saya sudah berbeda. Makanan untukku juga. ketika ada di rumah, Kato merasa tidak nyaman dan merasa di tempat yang salah. Saat Kato menderita sakit dua tahun lalu, dia di rawat di rumah sakit selama sebulan dan istrinya hanya

menjenguknya sekali. Yang keluar dari mulut istrinya yang hanya lima menit datang saat itu, hanyalah perkataan bahwa dia khawatir tentang uang rumah sakit jika Kato tak kunjung sembuh. “Saya menanggapi dokter saya dan mengatakan bahwa saya tidak akan lama lagi bersama dengan dia. Dan saya tahu ini hanya masalah uang. Kedua anak saya sudah mandiri dan bersama istri saya. Melihat respon istri yang seperti itu saat suami sedang sakit dengan umur yang sudah tua, rasanya seperti berkata, “aku ingin kau segera mati karena biayanya mahal”. Rasanya hidup tanpa istri jauh lebih bahagia. Lalu Kato pergi ke pengacara dan berkonsultasi dan pergi dari rumah untuk menyewa apartemen. Rumah itu diberikan untuk istri dan sepakat asset dibagi rata. Setelah satu setengah tahun masa kami tidak hidup terpisah, kami bercerai.

Analisis:

Takeji Kato, seorang karyawan, adalah seorang suami yang menceraikan istrinya di usia 58 tahun setelah masa pensiun. Faktor yang mempengaruhi hal tersebut adalah ketidakpuasan terhadap istri. Takeji merasa tidak dicintai dan tidak tahan dengan kata-kata istrinya seperti menurut *Yourbengo* (2017) bahwa ada beberapa alasan suami menggugat istrinya yang sudah bersama di usia pernikahan yang matang, yaitu suami merasa terkekang, tidak tahan dengan ucapan istri,

tidak merasa dicintai, dan istri yang tidak mau mendengar perkataan suami.

Data 10

(https://detail.chiebukuro.yahoo.co.jp/qa/question_detail/q1469859339

:2011/8/2621:55:07)

50歳を越えて離婚された女性、離婚を決めた私にアドバイスをお願いします。53歳の女性です。離婚を決めました。ことの発端は、浮気まがいのメールが夫の携帯にあったこと。偶然、23歳の長男が発見。最初は冗談だと思っていましたが、うん？これは怪しいぞ！となった訳です。夫はいびつな性格で夫婦は19年間セックスレスでしたが、それも仕方ないとあきらめていました。私は10年前から仕事を持ち、ひとりで家事をこなし、現在、23歳の長男と20歳の長女を進学させ、（長男は既に就職しましたが・・・）毎日、それだけで精一杯でした。いつも家族に冷たい夫でしたが、生活費は十分にくれました。夫は前立腺の病気を発症していましたが、浮気する甲斐性もないはず・・・とっていました。子育てが終われば離婚する！私も自由になれる！と、かねてから思っていました。何なんですかね？私は更年期障害なのではないですかね？「うつ」状態なんです。体調がよくありません。離婚するって、大変な労力が必要だと聞いています。私が今一番に不安に思うのは、経済的なことです。浮気を否定している夫から慰謝料がもらえるのか？家も、ローンを相殺したらたいしてないはず。・・・こんな状態で財産分与はあるのか？まだずーと先にもらうはずの公的年金くらいしか、分与してもらえないのではない？・・・私の勤務は派遣で薄給なのです。なのに来春、大きなリストラがあるそうです。もし解雇されたら、生活できるかしら？・・・50歳を越えて離婚をされた女性、こんな私にアドバイスをお願いします。

Siapa wanita yang bercerai di atas 50 tahun? Saya wanita berumur 53 tahun dan saya bercerai dengan suami saya. Alasan utamanya adalah saya menemukan pesan perselingkuhan di telepon genggam suami saya. Kebetulan, anak laki-laki saya yang berumur 23 tahun menemukannya. Awalnya saya pikir itu bercanda tapi ternyata benar.

Suami dengan karakternya, berhubungan seks selama 19 tahun. Saya sudah menyerah, tidak tahu harus bagaimana lagi. Saya bekerja sejak 10 tahun yang lalu, mengerjakan pekerjaan rumah tangga sendiri. Sekarang yang terpenting adalah anak laki-laki (sudah bekerja) dan anak perempuan saya yang berumur 23 dan 20 tahun. Itulah yang saya butuhkan setiap hari. Saya memang mendapatkan suami yang dingin tapi cukup dalam biaya hidup. Saya pikir, suami saya yang mempunyai penyakit prostat tidak akan selingkuh. Jika sudah selesai mengurus anak-anak, saya akan bercerai. Saya akan bebas. Saya berpikir untuk beberapa waktu, Apakah saya terkena gangguan menopause? Dalam keadaan "tertekan", saya merasa tidak enak badan. Saya mendengar bahwa dibutuhkan banyak kerja untuk bercerai. Ekonomi yang paling saya khawatirkan saat ini.

Analisis:

Tokoh di atas menceritakan seorang istri berusia 53 tahun yang memutuskan akan meminta cerai pada suaminya yang sebenarnya bisa memenuhi kebutuhan hidup istri.

Faktor yang mempengaruhi *jukunen rikon* tersebut yang pertama adalah ketidakpuasan terhadap karakter suami yang telah berselingkuh. Seperti teori Yamashita (1986), sang istri yang sudah menghabiskan waktu untuk mengurus keluarga merasa sangat tidak dihargai oleh suaminya yang sudah berselingkuh. Namun meskipun

sudah mengetahui suaminya selingkuh, istri harus tetap bertahan demi anaknya karena masalah ekonomi sehingga memutuskan untuk bercerai setelah anak sudah mandiri. Hal tersebut sama dengan keterangan dari media online *Syukatsulabo* tahun 2018 yaitu Penyebab peningkatan perceraian yang matang adalah bahwa ada beberapa orang yang bekerja untuk wanita di usia 50-an dan 60-an, dan tampaknya ada sebagian besar ibu rumah tangga yang akan khawatir tentang ekonomi jika mereka bercerai. Jadi untuk mendapatkan uang selama bertahun-tahun, ada peningkatan kasus perceraian karena dana perceraian terakumulasi.

Data 11

(<https://japantoday.com/category/features/kuchikomi/more-senior-partners-uncoupling> : 2013-3-4)

It was last autumn when 62-year-old Mr A, a retired resident of Tokyo's Nerima Ward, was abruptly told by his 60-year-old spouse, "I want to live by myself." That was the opening shot in a drawn-out process that led to the couple's impending divorce. They had wed while he was still in college. After graduation he joined a trading firm that specialized in machinery, and the couple was blessed with two children and three grandchildren. Upon retiring two years earlier, he used his retirement bonus from the company to pay off the balance of the home mortgage. In addition to about 200,000 yen a month in social security, his wife also earns income from her work at a beauty salon, so the two were financially comfortable. And in his mind at least, he felt happy and satisfied with their married life. They hardly ever engaged in a heated quarrel. His wife looked and acted her age, which is to say she was not the type to seek out the company of a younger man.

Pada musim gugur yang lalu ketika pak A berusia 62 tahun, seorang pensiunan dari Nerima Tokyo, secara tiba-tiba diberitahu oleh istrinya yang berusia 60 tahun, "Saya ingin hidup sendiri." Itu adalah kata pembuka yang keluar untuk menyatakan cerai. Mereka menikah ketika dia masih kuliah. Setelah lulus ia bergabung dengan perusahaan perdagangan yang khusus di bagian mesin, dan pasangan itu dikaruniai dua anak dan tiga cucu. Setelah pensiun dua tahun sebelumnya, ia menggunakan bonus pensiunnya dari perusahaan untuk melunasi saldo hipotek rumah. Selain sekitar 200.000 yen per bulan dalam jaminan sosial, istrinya juga mendapat penghasilan dari pekerjaannya di salon kecantikan, sehingga keduanya merasa nyaman secara finansial. Dan dalam pikirannya setidaknya, dia merasa bahagia dan puas dengan kehidupan pernikahan mereka. Mereka hampir tidak pernah terlibat pertengkaran panas. Istrinya memandang dan bertindak sesuai usianya, yang berarti dia bukan tipe orang yang mencari teman pria yang lebih muda.

Analisis :

Tuan A (nama samaran), 62 tahun, istrinya meminta cerai tepat setelah dia pensiun dari perusahaan perdagangan. Penulis melihat faktor pereraian lanjut usia tersebut adalah karena pembagian harta bersama karena istrilah yang menggugat terlebih dahulu setelah suami pensiun.

Data 12

(https://books.google.co.id/books?id=yB8cBQAAQBAJ&pg=PT80&lpg=PT80&dq=yamashita+katsutoshi++divorcejapanese+stye+pdf&source=bl&ots=fSVgT8KXDq&sig=wokD4SekWubYoeMM4OGwwV-Mbxk&hl=ban&sa=X&ved=2ahUKEwje3eaM_bzcAhXZR30KHRLA2IQ6AEwAHoECAAQAQ)

Yamada-san comes closest to the idealized romantic potential in later-life divorce. She was the first person I met who is explicitly considering divorce in April 2007, and firmly describes her current state as “thinking about it” (kangaechū). But Yamada-san did say that she was currently considering if she should divorce him “next year.” Yamada-san said she was happy to be first and described herself as a housewife with two older children. Yamada-san understood her husband to be a selfish, silent jerk. They had nothing to say to each other, few interests in common, and he demanded she be responsible for all the household and domestic work, even when she was busy with her part-time job or many hobbies. Despite the fact their children were adults, Yamada-san’s husband refused to change his expectations of her. Meanwhile, a few years before, Yamada-san learned that he had been carrying on a long-term affair with a married housewife, which she discovered by accidentally finding emotionally intimate email exchanges. Her 35-year marriage might be too far gone to survive the next year.

Yamada adalah seorang wanita yang mendaftarkan perceraianya pada April 2007. Beliau adalah ibu dari dua anak yang sudah dewasa. saya bertemu Yamada san saat berada dalam sebuah pertemuan grup. Yamada san tidak banyak menceritakan suaminya tapi beliau mengatakan bahwa suaminya sangat egois dan diam-diam sangat berengsek. Mereka tidak melakukan apapun untuk dikatakan satu sama lain, beberapa kepentingan yang sama, dan dia menuntut atas semua pekerjaan rumah tangga bahkan ketika Yamada san sedang

sibuk bekerja paruh waktu atau dengan hobinya yang lain. Terlepas dari kenyataan bahwa anaknya telah dewasa, suaminya benar-benar jauh dari ekspektasinya. Dia menemukan suaminya berselingkuh dengan wanita bersuami dalam waktu lama yang tidak sengaja diketahuinya dari pertukaran email yang intim dan emosional. pernikahannya selama 35 tahun mungkin terlalu jauh untuk dihadapi (Perlu diketahui bahwa Yamada berkumpul bersama dalam sebuah grup dimana hampir semua yang berada dalam grup tersebut adalah orang yang sudah bercerai atau sedang dalam proses perceraian.)

Analisis:

Yamada adalah seorang istri yang usia pernikahannya telah menginjak 35 tahun. Faktor-faktor yang mempengaruhi gugatan perceraianya yang utama adalah ketidakpuasan dengan sikap pasangan yaitu renggangnya hubungan emosional suami dan istri. Terlihat bahwa suami Yamada adalah tipe suami yang cukup menjunjung maskulinitas dengan selalu menuntut istri melakukan semua pekerjaan rumah tanpa peduli kesibukan istrinya seperti pendapat Jun Yoshida (2014:3) yang membahas tentang suami yang menjunjung maskulinitas sangat kurang berkomunikasi dengan istri karena targetnya adalah bekerja. Faktor ketidakpuasan yang lain adalah ketidaksetiaan pasangan. Suami Yamada selingkuh dan perselingkuhan adalah faktor yang menyebabkan rumah tangga diambang perceraian di usia matang seperti pendapat Ikeuchi, Ito, dan

Iwai (2006). Faktor yang ke dua adalah anak sudah dewasa sehingga Yamada semakin tidak mempunyai alasan untuk mempertahankan rumah tangga. Karena menurut Emiko dalam Yoshida (2014), ketika anak-anak meninggalkan rumah (sudah dewasa atau mandiri) maka tidak ada lagi yang akan mengikat orang tua. Untuk faktor yang ke tiga adalah pembagian harta bersama karena jelas bahwa Yamada mendaftarkan perceraianya pada bulan April 2007 ketika perubahan dana pensiun disahkan.

Data 13

(https://lsa.umich.edu/women/people/core-faculty/allison-alexey/_jcr_content/file.res/AlexyCV.pdf :2007)

Kawaguchi-san is planning the rest of her life. Living in the suburbs of a city on Shikoku, and not participating in any formal support groups, Kawaguchi-san has been married for over thirty years and has three children. She met her future husband through an omiai [arranged meeting with potential marriage partner] – the first and only omiai meeting she ever had – and married into his fisherman family in 1974. Their marriage has been wracked by two major problems: her difficult relationship with her mother-in-law and her husband's terrible gambling problem. The former stress was because Kawaguchi-san and her husband lived near his family, and Kawaguchisan was entirely responsible for her in-laws' care. As she described the problems to me, she said she knew they were clichéd, but that didn't make them any easier to fix. Her mother-in-law was horrible to her, demanding domestic help and criticizing her at every turn, while indulging Kawaguchi-san's husband and thus exacerbating his physical violence and gambling problems. His gambling became so bad that Kawaguchi-san eventually had to ask her own parents for money and took out loans to cover his twenty million yen debts, mostly from pachinko and high-interest loans taken to cover those losses. When her youngest child was four years old, in 1982, Kawaguchi-san decided she had to start working to make at least enough to provide for her children. At that time, she worked a part-time job each day

during school hours and has been working at least part-time jobs ever since. Her children are now thirty-one, twenty-nine, and twentysix and live on heir own. She had been thinking about divorce for years but was unsure if she could support herself. In addition to her own income from her current job at a women's counseling center, half of her husband's pension should be enough.

Kawaguchi san merencanakan istirahat dari kehidupannya. Beliau tinggal di pinggiran kota Shikoku dan tidak berpartisipasi dengan grup formal yang mendukung. Beliau sudah menikah selama lebih dari 30 tahun. Beliau bertemu dengan suaminya dari *omiaiai*. Dan itu adalah *omiaiai* yang pertama dan satu-satunya yang didatanginya dan beliau menikah dengan suaminya yang berasal dari keluarga nelayan pada tahun 1974. Pernikahannya didera oleh dua masalah utama yaitu: hubungan yang sulit dengan ibu mertuanya dan masalah judi suaminya yang menurutnya mengerikan. Yang membuat stress adalah Kawaguchi dan suaminya tinggal di dekat keluarga suaminya dan Kawaguchi bertanggung jawab dengan perawatan mertuanya. Saat dia menceritakannya padaku, dia bilang mereka sangat klise. Tapi itu tidak lebih mudah untuk diselesaikan. Ibu mertuanya sangat menyeramkan padanya, meminta bantuan rumah tangganya, dan mengkritiknya setiap waktu alih-alih memanjakan suaminya dan memperburuk kekerasan fisik dan judi suaminya. Perjudian suaminya sudah terlalu buruk harus selalu menanyakan uang pada orang tuanya sendiri dan meminjamnya untuk menutup hutangnya sebesar dua juta yen, kebanyakan pachinko dan pinjaman harga tinggi diambil untuk menutupi kerugian tersebut. Setelah anaknya berumur 4 tahun pada 1982, dia memutuskan untuk

bekerja sambilan selama jam sekolah untuk memenuhi kebutuhan anaknya. Sekrang anaknya telah menginjak umur 31, 29, dan 26 tahun dan tinggal di tempat mereka masing-masing. Dia memikirkan perceraianya tapi tidak yakin apakah dia bisa menhidupi dirinya. Tapi dari pekerjaannya saat ini dan pensiun suaminya harusnya cukup.

Analisis:

Kawaguchi adalah seorang istri yang pernikahannya telah mencapai 30 tahun menginginkan perceraian terhadap suaminya yang berasal dari keluarga nelayan. Faktor pertama yang mempengaruhi *jukunen rikon* pada kasus pertama adalah sudah lelah mengurus orang tua. Orang tua disini adalah mertua Kawaguhi yang cukup menyakiti. Jadi Kawaguchi merasa stress dan harus menahannya. Karena memang menurut Kumagai (2015:3), banyak istri yang stress karena harus memperhatikan orang tuanya. Faktor ke dua adalah ketidak puasan dengan sikap suami yang suka berselingkuh dan gemar berjudi sangat sesuai dengan pernyataan Ikeuchi, Ito, dan Iwai (2006) dalam “*Deffered Benefits, Romance, and the Specter of Late-Life Divorce*”, tentang karakteristik pernikahan yang beresiko untuk bercerai di usia matang, yaitu renggangnya hubungan emosional antar pasangan, kekerasan fisik maupun verbal, suami yang tidak membantu pekerjaan rumah sama sekali, pasangan yang tidak saling berbicara, pasangan yang tidak menggunakan kata yang sopan seperti *aisatsu*, pasangan yang tidak melakukan hubungan seksual, kecanduan alkohol dan judi,

dan perselingkuhan. Lalu faktor yang ke tiga adalah anak sudah mandiri. Anak Kawaguchi telah berpisah dan tinggal di tempat masing-masing. Sehingga Kawaguchi tidak lagi merasa terikat dengan keluarganya seperti pendapat Emiko dalam Jun Yoshida tentang “*ko wa Kasugai*” yang berarti bahwa anak adalah pengikat orang tua. Alasan yang terakhir adalah pembagian harta bersama karena Kawaguchi khawatir tidak bisa menghidupi diri, sehingga mengajukan pereraian setelah suami pensiun.

Data 14

<http://komachi.yomiuri.co.jp/t/2017/0218/794569.htm:2017-02-18>

結婚25年、現在46歳パート勤務、ゆまと申します。私事ですが、娘が二年前に嫁いで、夫婦二人暮らしになってから気が抜けてしまい、これから老後で手と手を取り合い仲良く暮らしていくことが課題でしたが長年のお互いの不満が爆発して話し合いの結果あっさり先日離婚となりました。原因は、長年お互いにすれ違いの生活で、仮面夫婦だったことです。長年夫婦をやってきて再構築出来なかったのは非常に残念ですが、今ある意味、肩の荷が下りた気持ちです。持ち家に、私が残ることに決まり、旦那がアパートに出ていくことになり、さすがに旦那の荷物が全部無くなって殺風景な部屋を見た時は、涙が出ました。ついに1人になったんだあ あんな旦那でももう生活音とか聞こえないんだあと寂しくなりました。自分たちで離婚を決めたわけで後悔もしていないつもりでしたが、ふと漠然と1人の生活が不安になり情緒不安定気味になったりします。長年結婚生活を送られて離婚された方がどうやって乗り越えて前向きに頑張ったのか心の葛藤など体験談をお聞かせ願えれば幸いです。

Saya Yuma, menikah umur 25 tahun. Sekarang saya adalah pekerja sambillan di usia 46 tahun. Untuk alasan pribadi, anak perempuan saya menikah dua tahun lalu dan keluar untuk menjalani kehidupan rumah tangganya berdua. Dan sekarang saya hidup sebagai orang tua yang

saling berpegangan dan berhubungan dengan baik. tapi itu adalah tantangan selama beberapa tahun dan tidak puas terhadap satu sama lain. Pada puncaknya, kami pun berdiskusi dan bercerai di kemudian hari. Alasannya adalah hidup seperti topeng satu sama lain selama bertahun-tahun berpasangan. Sangat menyedihkan bahwa dia datang dan sudah berpasangan bertahun-tahun tapi tidak bisa memperbaikinya. Tapi beban di pundak semakin ringan. Saya tinggal di rumah sendiri dan suami di apartement. Dan ketika barang-barang suami saya sudah dibawa pergi semua, aku melihat ruang yang terasa kosong (hambar), air mata keluar. Saya sedih dan putus asa karena sebentar lagi tidak bisa mendengar suara suami saya dalam hidup saya. Saya berusaha untuk tidak menyesal karena itu keputusan kami sendiri. Tapi tiba-tiba hidup sendiri menjadi tidak mudah dan saya mencoba menyetabilkan emosi saya. Saya beruntung mempunyai pengalaman cerita bagaimana mengatasi konflik dan perceraian yang membawa kehidupan pernikahan saya.

Analisis :

Yuma adalah seorang istri yang bercerai sekitar 46 tahun. Sejak anaknya menikah, semakin merasa tidak cocok dengan suami sehingga hubungan renggang seperti pendapat Ikeuchi, Ito, Iwai dalam *“Deffered Benefits, Romance, and the Specter of Late-Life Divorce”*. Apalagi anak sudah menikah, maka tidak ada lagi yang mengharuskan mereka untuk bertahan seperti pendapat Emiko dalam Jun Yoshida

(2014) ketika anak-anak telah meninggalkan rumah, orang tua akan mengalami transisi. Mereka yang tidak dapat mengatur dinamika pernikahan mereka dan akan menghadapi pernikahan di akhir usia.

Data 15

(<http://www.washingtonpost.com/wp-dyn/content/article/2005/10/16/AR2005101601145.html?noredirect=on> :17/10/2005)

Sakura Terakawa, 63, describes her four decades of married life in a small urban apartment as a gradual transition from wife to mother to servant. Communication with her husband started with love letters and wooing words under pink cherry blossoms. It devolved over time, she said, into mostly demands for his evening meals and nitpicking over the quality of her housework. So when he came home one afternoon three years ago, beaming, and announced he was ready to retire, Terakawa despaired. " 'This is it,' I remember thinking. 'I am going to have to divorce him now,' "Terakawa recalled. "It was bad enough that I had to wait on him when he came home from work. But having him around the house all the time was more than I could possibly bear." Concerned about her financial future if she divorced, Terakawa stuck with their marriage -- only to become one of an extraordinary number of elderly Japanese women stricken with a disorder that experts here have recently begun diagnosing as retired husband syndrome, or RHS.

Sakura Terakawa, 63, menggambarkan empat dekade kehidupan pernikahannya di sebuah apartemen kecil sebagai transisi yang bertahap dari istri ke ibu menjadi hamba. Komunikasi dengan suaminya dimulai dengan surat cinta dan kata-kata merayu di bawah bunga sakura merah jambu. Hal ini berubah seiring waktu, katanya, yang paling sering adalah permintaan untuk makan malamnya dan detaile mengurus kualitas pekerjaan rumahnya. Jadi ketika dia pulang

suatu sore tiga tahun lalu, dengan berseri-seri, dan mengumumkan bahwa dia siap untuk pensiun, Terakawa putus asa."Ini dia,' aku ingat. 'Aku harus menceraikannya sekarang,'" Terakawa teringat. "Sudah cukup buruk aku harus menunggunya ketika dia pulang kerja. Tapi membiarkannya di rumah sepanjang waktu lebih daripada yang bisa kutanggung."Khawatir tentang masa depan keuangannya jika dia bercerai, Terakawa terjebak dengan pernikahan mereka - hanya untuk menjadi salah satu dari sejumlah besar wanita Jepang tua yang terserang gangguan yang para ahli di sini baru mulai mendiagnosis sebagai sindrom suami yang sudah pensiun, atau RHS

Analisis :

Terakawa adalah seorang istri yang telah menikah selama 40 tahun. Faktor-faktor yang mempengaruhi perceraian adalah tidak puas dengan karakter suami dinilai terlalu banyak complain dan menyuruh menurut Terakawa, membuat renggangnya hubungan emosional sama dengan salah satu karakteristik yang disebutkan Ikeuci, Ito, dan Iwai (2006). Terpikir perceraian adalah karena suaminya akan pensiun. Dan dia khawatir hidupnya akan terganggu dan tidak bebas dengan suami yang terus berada di rumah seperti istilah *nure ochiba* oleh Kumagai (2006), yaitu suami yang sebelumnya penuh dedikasi tinggi tidak mempunyai minat atau hobi khusus untuk dikembangkan dan tidak mempunyai tempat khusus untuk pergi, karena itu para suami cenderung tinggal di rumah sepanjang hari. Istripun harus menyiapkan makan unuk

suaminya tiga kali sehari dan merasa kebebasan sebelum suaminya pensiun berkurang. Apalagi ketika suami menjadi begitu ingin tahu kemanapun istrinya pergi bahkan memaksa ikut.

Data 16

(<https://onayamifree.com/threadres/2678556/> :18/07/18)

婚姻生活 30 年目にして、やっと気づきました。妻が突然キレたり 離婚や別居を言われる理由が、毎日の生活の中で妻から言われる小さな事で 洗濯物は洗濯カゴに入れる 食べた食器は流しに持って行く 不燃物のゴミ箱に可燃物を入れない etc. 普段 妻から言われる、これらの事は 聞き流したり面倒臭いのでやらなかったりと たいした事では無い最後は妻がやってくれる と思っていました。でも これが大間違いの元でした この繰り返しが毎日 1 年 365 日×30 年 そりゃー最後にはキレますよね離婚や別居を言われて当然です！私は心から反省しました。今日 只今から行動を改めてます！だから熟年離婚は勘弁してください！もう 遅いですか……？

Akhirnya saya sadar setelah 30 tahun menikah. Keputusan cerai yang tiba-tiba diputuskan istri saya, alasannya terpisah. Segala hal-hal kecil selalu dikatakannya setiap hari dalam hidupku seperti pakaian kotor masukkan ke keranjang, piring kotor masukkan ke wastafel, jangan masukkan sampah tidak mudah terbakar ke sampah mudah terbakar, dan lain-lain. Hal itu selalu dikatakan istri saya padahal itu bukan sesuatu hal yang besar, itu menjengkelkan dan buruk karena orang tidak melakukannya. Pada akhirnya saya pikir istri saya akan melakukannya. Tapi ini adalah sumber kesalahan besar Pengulangan ini setiap hari 365 hari x 30 tahun Setiap hari itu akan tertangkap Akhirnya wajar untuk mengatakan perceraian dan hidup terpisah! Saya

menyesal dari hati saya. Kami sedang memperbaiki perilaku kami mulai sekarang! Jadi harap berhati-hati dengan perceraian yang matang. Apakah sudah terlambat?

Analisis:

Pasangan yang menikah selama 30 tahun namun sama-sama tidak. Puas dengan sikap pasangan masing-masing seperti dalam portal berita *Yourbengo*, sehingga suami tidak tahan dengan kata-kata istri yang dianggap terlalu cerewet. Lalu suami dianggap seperti terlalu abai dengan pekerjaan rumah atau seperti karakter-karakter laki-laki yang selalu menganggap seluruh pekerjaan rumah adalah pekerjaan istri (maskulinitas) sehingga dari kedua alasan tersebut menjadikan renggang hubungan emosional antar pasangan sesuai dengan karakteristik pernikahan yang berujung *jukunen rikon* menurut Ikeuchi (2006).

Data 17

(<https://www.fukuoka-ricon-law.jp/296/296006/>)

私は 31 年間の結婚歴を有する 60 歳の勤務医師です。妻は専業主婦の 67 歳です（公務員年金受給中）。年収は税込〇〇円、現在の職場に勤務して 10 年になり、退職はいつになるのか分かりません。また現在の財産は預金〇〇円、3 年前に購入したマンション、中古オーディオ装置、未婚で無職の 29 歳の娘が一人いる状況です。また 52 歳の時、水商売の女性と食事を数回して、それが浮気として発覚した経緯があります。今の妻と離婚して、好きな 60 歳の女性（現在結婚中、この女性は夫から DV を受けており、かつ浮気された経験が 1 回あります）と結婚したいのですが、まだ私の妻には何も告げておりません。協議

離婚が成立するかどうかは分かりませんが、事前にご教示下さい。質問内容は以下ですので宜しくお願い致します。

Saya dokter praktek berumur 60 tahun usia pernikahan 31 tahun istri saya adalah ibu rumah tangga berusia 67 tahun (penerima pensiun pegawai negeri). Pendapatan tahunan adalah pajak - termasuk ○ ○

yen, sudah 10 tahun sejak saya bekerja di tempat kerja saat ini, saya tidak tahu kapan masa pensiunnya nanti. Juga, properti saat ini adalah deposito 0 yen, sebuah kondominium yang dibeli tiga tahun lalu, perangkat audio yang digunakan, dan ada satu anak perempuan yang belum menikah yang menganggur berusia 29 tahun. Pada usia 52, saya makan beberapa kali dengan seorang wanita di pasar air, dan saya mengetahui bahwa itu perselingkuhan. Saya ingin menikahi wanita saya yang berusia 60 tahun dan bercerai dari istri saya (saat ini ia mempunyai suami dan mendapat kekerasan dari suaminya dan memiliki satu pengalaman suaminya selingkuh), saya belum menceritakan apa-apa kepada istri saya. Saya tidak tahu bagaimana cara *kyougirikon*. Mohon bantuannya. Saya sangat menghargai bantuan anda.

Analisis:

Seorang suami yang telah menikah selama 31 tahun. Satu-satunya faktor yang mempengaruhi adalah suami yang tidak setia atau ada perselingkuhan. Namun sang istri belum mengetahui. Padahal menurut

Yamashita (1986), bagi perempuan yang menghabiskan waktu sebagai ibu rumah tangga penuh, perselingkuhan adalah pukulan berat bagi mereka dalam berumah tangga. mengatakan adanya beberapa kasus yang ia teliti menunjukkan perselingkuhan oleh salah satu pasangan menjadi alasan kuat pasangan lanjut usia bercerai. Walaupun pihak yang ingin bercerai terlebih dahulu adalah pihak suami, tidak dijelaskan tentang kesalahan istri.

Data 18

(<https://www.sodan-lp.jp/board/money/detail/1370591> : 2017.08.27)

夫 60 才。定年ですが、65 才まで仕事を延長できる様子。私は 57 才。扶養範囲のパート勤務。成人した子供 2 人います。離婚を考えてます。子供の親権や養育費は関係ないですが、サラリーマンの妻の立場の私は離婚した場合の年金や介護保険が心配です。自分でどのような手続きが必要ですか？財産分与や慰謝料は期待できません

Suami 60 tahun. Sudah masa pensiun tetapi dia dapat memperpanjang pekerjaan hingga usia 65 tahun. Saya berumur 57 tahun. Tugas saya adalah sebagai pendukung. Saya punya dua anak dewasa. Saya sedang berpikir tentang perceraian. Saya tidak peduli dengan hak asuh orang tua dan tunjangan anak, tetapi saya khawatir tentang pensiun dan asuransi perawatan dalam kasus perceraian jika saya seorang istri dari pekerja yang digaji. Prosedur apa yang diperlukan untuk saya? Kami tidak dapat mengharapkan pembagian properti dan biaya hiburan.

Analisis :

Kasus di atas adalah seorang istri yang berusia 57 tahun dan ingin menceraikan suaminya. Faktor yang mendukung perceraian lanjut usia tersebut adalah pembagian harta bersama. Terlihat dari sang istri yang khawatir tentang pembagian pensiun.

Data 19

<https://www.nytimes.com/2003/03/25/world/as-japan-s-women-move-up-many-are-moving-out.html> 25/03/2003

Life was happy during the first 10 years of Tomoko Masunaga's married life. At the very least, as a middle-class housewife with two small children to raise, she was far too busy to focus on the nettles, Ms. Masunaga said. Serious problems in her marriage began to surface, though, as her children grew older, and Ms. Masunaga began doing things outside the home, first busying herself with the local parent-teacher association, and eventually writing articles for the teachers' union and environmental groups. "He had promised he would support me if I decided to work someday, and then he betrayed me," Ms. Masunaga said of her husband, an executive. "What's worse, he got old very quickly." "For the first 10 years at least he made an effort at conversation," she said. "But the company was everything for him, and after awhile, he would just come home tired and sit silently watching TV, drinking his beer." Finally, after more than two decades of marriage, Ms. Masunaga moved boldly to cast off her unhappiness and, taking a step that stunned her husband, got a divorce against his wishes.

Hidup bahagia selama 10 tahun pertama kehidupan pernikahan Tomoko Masunaga. Paling tidak, sebagai seorang ibu rumah tangga kelas menengah dengan dua anak kecil untuk dibesarkan, dia terlalu sibuk untuk fokus jelatan, kata Masunaga. Masalah serius dalam perkawinannya mulai muncul, ketika anak-anaknya tumbuh dewasa, dan Ms. Masunaga mulai melakukan hal-hal di luar rumah, pertama-

tama menyibukkan diri dengan asosiasi orangtua-guru setempat, dan akhirnya menulis artikel untuk serikat guru dan lingkungan kelompok." Dia telah berjanji dia akan mendukung saya jika saya memutuskan untuk bekerja suatu hari nanti, dan kemudian dia mengkhianatiku, " kata Masunaga tentang suaminya, seorang eksekutif. " Yang lebih parah, dia menjadi tua dengan sangat cepat." Selama 10 tahun pertama setidaknya dia berusaha dalam percakapan, " katanya. " Tapi perusahaan itu segalanya untuknya, dan setelah beberapa saat, dia hanya akan pulang ke rumah lelah dan duduk diam menonton TV, minum birnya. "Akhirnya, setelah lebih dari dua dekade pernikahan, Masunaga bergerak dengan berani untuk membuang ketidakbahagiaan dan, mengambil langkah yang mengejutkan suaminya, bercerai dengan keinginannya.

Analisis:

Tomoko adalah seorang istri yang meminta cerai pada suaminya di usia pernikahan lebih dari dua puluh tahun. Faktor-faktor yang mempengaruhi adalah tidak puas terhadap sikap pasangan dari renggangnya hubungan emosional pasangan seperti teori yang disebutkan oleh Ikeuchi dkk (2006) yaitu salah satu karakteristik keluarga yang terancam mengalami perceraian di usia matang adalah renggangnya hubungan emosional dengan pasangan. Dan suaminya menjadi tipe yang sangat mementingkan pekerjaannya sehingga jarang

komunikasi. Hal tersebut membuktikan tentang pernyataan Yoshida (2014) bahwa waktu untuk memperdalam hubungan dengan keluarga oleh suami juga sangat kurang. Karena maskulinitas terhadap suami digambarkan dengan bekerja keras di tempat kerja, berkompetisi dengan hasil, pendapatan, dan posisi sudah ditanamkan sejak kecil bahwa laki-laki harus bisa belajar, masuk universitas dan perusahaan dengan nilai yang sangat baik. hal tersebut membuat laki-laki kurang berkomunikasi atau berbagi waktu dengan keluarganya. Kemudian faktor yang ke dua adalah pandangan perempuan telah berubah. Menurut Tomoko, istri harusnya bisa bekerja seperti Menurut Yamashita (1986:416-417), perempuan Jepang saat ini cenderung lebih mandiri dengan tidak hanya berfokus pada pekerjaan rumah tangga yang mengandalkan penghasilan suami. Banyak dari mereka yang mengikuti berbagai kegiatan di sela-sela kehidupannya bahkan juga bekerja sehingga pergaulan lebih luas. perempuan Jepang kini tidak lagi sepenuhnya bangga menjadi ibu rumah tangga sehingga menjadi salah satu elemen yang memperkuat keinginan seorang istri untuk bercerai.

Data 20

(<https://www.irishtimes.com/news/japan-s-wives-ready-to-divorce-as-workaholic-husbands-retire-1.998342> :04/05/2006)

"I wanted him to keep working, but I've accepted now he's going to come home," says Hatae Ishizaki, whose 59-year-old architect husband is due to punch his last card in April next year. "I'm just going to spend more time out of the house. I'd divorce him, but it's too much trouble at my age." "It's like having another child around the house," says Ms Ishizaki.

“Saya ingin dia tetap bekerja tapi saya sudah ijin dia untuk pulang.”

Kata Hatae Ishizaki yang mana suaminya, berumur 59 tahun, sebagai arsitek yang siap pensiun April tahun depan. “ Aku hanya ingin menghabiskan lebih banyak waktu keluar rumah. Aku akan menceraikan dia tapi terlalu banyak masalah di umurku saat ini. ini seperti mempunyai anak keil disekitar rumah.” Kata Ishizaki.

Analisis :

Hatae adalah seorang istri dengan suami berumur 59 tahun dan sedang menunggu masa pensiun. Faktor yang mempengaruhi perceraian lanjut usia di atas adalah tidak puas dengan sikap suami karena sebentar lagi pensiun sehingga istri akan merasa terkekang dan susah karena seperti merawat anak kecil lagi. Hal tersebut sesuai dengan teori Kumagai tentang faktor yang mempengaruhi adalah setelah pensiun, banyak dari mantan pengusaha menghabiskan sebagian besar waktunya di rumah. Banyak suami yang susah untuk *manage* waktu luangnya sehingga istri merasa tidak nyaman berurusan bersama dengan suami yang berkeliaran di rumah sepanjang hari. Karena itu wajar bagi istri untuk mulai memusuhi sang suami dan mempertimbangkan perceraian.

D. Interpretasi Data

Menurut hasil analisis data di atas, dapat disimpulkan bahwa *jukunen rikon* pada zaman Heisei digambarkan dengan wanita sebagai pihak yang memprakarsai *jukunen rikon* dan sedikitnya, usia pernikahan mereka adalah dua puluh tahun. Tapi, dari kasus di atas, sebagian besar pasangan yang bercerai justru paling banyak menginjak usia pernikahan 30 tahun ke atas. Sebagian besar pasangan yang bercerai didominasi oleh pasangan dengan suami yang bekerja dengan sistem gaji atau *salary man* dan para *salary man* ini adalah tipikal suami yang cukup sibuk sehingga jarang berkomunikasi dengan istri.

Dan dari faktor-faktor di atas, yang paling banyak mempengaruhi *jukunen rikon* adalah rasa tidak puas terhadap karakter pasangan yang mana lebih banyak dirasakan oleh istri yang kecewa dengan suaminya. Banyak istri yang dengan pola pikir suami yang terus mengutamakan pekerjaannya, membuat mereka jarang berkomunikasi dan hubungan emosional pasangan merenggang. Selain itu, banyak suami yang ternyata berselingkuh, dan suami yang tidak pernah membantu istri, seolah-olah bersikap bahwa pekerjaan rumah tangga itu hanya perlu dikerjakan oleh istri. Namun di sisi lain, sebagian istri harus menunggu anak tumbuh dewasa untuk bercerai karena memang digambarkan bahwa pada masa itu istri lebih fokus terhadap anak. Sebagian besar istri yang mempunyai anak, rata-rata menunda niatnya dengan alasan

ekonomi. Tapi pada intinya, alasan utama adalah sikap pasangan, baru kemudian dipertimbangkan dengan faktor-faktor lain.

BAB V

KESIMPULAN

Setelah meneliti 20 data yang berhubungan dengan faktor-faktor yang menyebabkan *jukunen rikon*, penulis akan menyimpulkan keseluruhan mengenai *jukunen rikon*.

A. Kesimpulan

Perceraian di Jepang terjadi juga pada usia pernikahan dua puluh tahun ke atas atau yang disebut sebagai *jukunen rikon* mulai banyak diperbincangkan setelah adanya revisi undang-undang seputar pembagian dana pensiun pada tahun 2007. *Jukunen rikon* biasanya diprakarsai oleh pihak istri yang memang sudah tidak sanggup lagi membina pernikahan dengan suami. Biasanya *jukunen rikon* dilakukan setelah suami pensiun karena suami tidak ada kesibukan lain. Selain itu, negara juga membuat peraturan tentang dana pensiun yaitu istri berhak mendapatkan sebagian dana pensiun suaminya sesuai kesepakatan. Oleh karena itu, sebagian besar perceraian lanjut usia di Jepang dilakukan dengan kesepakatan.

Penyebab seorang istri mengajukan cerai pada usia matang pernikahan ternyata tidak terlalu berbeda dengan perceraian pada umumnya namun memang ada beberapa faktor yang terkadang memaksa mereka menunda perceraian. Beberapa faktor perceraian lanjut usia yaitu tidakcocokan dengan karakter pasangan seperti suami yang tidak pernah membantu maupun mengapresiasi pekerjaan rumah tangga istri,

perselingkuhan, tidak melakukan hubungan seks, kekerasan, kecanduan alkohol dan judi. Kemudian faktor anak yang sudah mandiri atau dewasa juga berperan dalam faktor *jukunen rikon*. Faktor selanjutnya adalah perubahan pandangan istri, harapan hidup tinggi, pembagian harta bersama, maupun lelah mengurus orang tua.

Faktor paling banyak adalah ketidakcocokan dengan perilaku pasangan yang pada umumnya sudah lama ditahan dan mencapai batas kesabaran tertentu, biasanya juga diikuti faktor pertimbangan lain seperti pasangan yang menunggu anaknya telah dewasa atau mandiri.

B. Saran

Setelah melakukan penelitian tentang *jukunen rikon* ini, peneliti mempunyai beberapa saran, yaitu:

1. Bagi para suami, hendaklah lebih sering berkomunikasi dengan istri dan mengapresiasi usaha para istri yang telah mengurus rumah tangga.
2. Bagi para istri, hendaklah lebih ikhlas dalam menjalankan rumah tangga dan tidak serta-merta menilai sesuatu dari untung-rugi
3. Bagi peneliti, penelitian ini masih sangat terbatas sehingga diharapkan untuk peneliti berikutnya dapat melanjutkan penelitian ini supaya ada perkembangan dalam pembahasan tema *jukunen rikon*.
4. Sebagai masukan untuk STBA JIA, sebagai wadah pendidikan, diharapkan memperluas area perpustakaan supaya kapasitas mahasiswa lebih banyak, diharapkan sumber pustaka atau buku

kemasyarakatan, budaya, dan linguistik diperbanyak, dan menyediakan buku karya dosen-dosen STBA JIA di perpustakaan sebagai bentuk apresiasi karya.

DAFTAR ACUAN

Alexy, A. 2007. *Deferred Benefits, Romance and The Specter of Later-Life Divorce*.
Japanstudien

Baseel, Casey. 2013. *What defines the Japanese character?*. Japan Today. (berita diakses pada
3 juni 2017 dari laman

<https://japantoday.com/category/features/lifestyle/what-defines-the-japanese-character>)

Gerhold, Paula. 2013. *The top 10 words to describe Japanese people (according to
foreigners)*. Japan Today (berita diakses pada 3 juni 2017 melalui
<https://japantoday.com/category/features/lifestyle/the-top-10-words-to-describe-japanese-people-according-to-foreigners>)

Goldberg, C. Daniel. 1985. *Contemporary Marriage: Special Issues in Couples
Therapy*. Dorsey Press.

Holloway, D. susan. 2010. *Women and Family in Contemporary Japan*. United
States of America: Cambridge University Press.

Horton, B. Paul. 1970. *The Sociology of Social Problems (ACC Sociology Series)*.
Appleton-Century-Croft: Educational Division.

Kato, Akihito. 2013. *The Japanese Family System*. Deputy Head of The Laboratory of
Historical Demography Mikolaj Szoltysek

- Katsutoshi, Yamashita. 1986. *Divorce, Japanese Style*. Japan Quarterly. 416-420
- Kodani, Midori. 2015. 高齢者の夫婦関係. Daichi Life Economic Research Institute.
- Kumaagai, Fumie. 2015. *Family Issues On Marriage, Divorce, and Older Adults in Japan*. Springer.
- Kurnia. Ahmad. 2014. *Metodologi Riset*. Bekasi: Reconiascript Self Publishing.
- Masakazu, Zamazaki. 1994. *Individualism and The Japanese : an Alernative Approach to Cultural Comparison*. Tokyo: Japan Echo Inc
- Mukai, motonobu. 2004. *Modernisation and Divorce Japan* (thesis). West Virginia: Marshall University.
- Mulyana, Deddy. 2004. *Metodologi Penelitian Kualitatif*. Bandung: PT Remaja.
- Nozokawa ,Takashi. 2018. 熟年離婚には「隠し口座」を準備すべきだ勝つのは「情報戦」を制した者だ. Presidden Online. (diakses pada 2 Juni 2018 melalui <http://president.jp/articles/-/25172>)
- Pletcher, Kenneth. *Heisei period: JAPANESE HISTORY*. Encyclopedia Britanica.
- (diakses pada 22 juni 2017 melalui <https://www.britannica.com/event/Heisei-period>)
- Sudiharto.(2007). *Asuhan Keperawatan keluarga dengan pendekatan keperawatan transkultural* ; editor, Esty Whayuningsih – Jakarta : EGC
- Sugiono. 2010. *Metode Penelitian Kuantitatif Kualitatif Dan R&D*. Bandung: Alfabeta.
- Tadao, Umesao. 1989. *Nihongo Daijiten*. Japan:Kodansha.

Yoshida, Jun. 2013. *社会学II2013 期末小論文について*. (diunduh pada 20 Maret

2017 melalui

<https://www.google.co.id/url?sa=t&source=web&rct=j&url=http://socio.k.kyoto-u.ac.jp/rtc/wp-content/uploads/2013/04/s2-6a1.pdf&ved=2ahUKEwiryMOEusvcAhVLMd4KHXIhALkQFjAAegQIAhAB&u sg=AOvVaw3U70Ji0TNbzeWdBfK69yoZ>

Data dan Statistik :

調査部. 2015. 定着する中高年の離婚. 三菱 UF リサーチ & コンサルティング.

Diunduh pada 15 April 2018 melalui www.murc.jp

Kodani, Midori. 2015. *Kourei-sha no fuufu kankei*. Spring: *Daiichiseimei keizaiken kyuushoraifu dezain kenkyuu honbu*.

<http://www.washingtonpost.com/wp-dyn/content/article/2005/10/16/AR2005101601145.html?noredirect=on>

Akses 17-10-2005

<https://www.nytimes.com/2003/03/25/world/as-japan-s-women-move-up-many-are-moving-out.html>

Akses 25/03/2003

<https://www.irishtimes.com/news/japan-s-wives-ready-to-divorce-as-workaholic-husbands-retire-1.998342>

akses 04/05/2006)

<https://dot.asahi.com/wa/2017082500054.html?page=2>

akses 2017.8.30 07:00

<http://komachi.yomiuri.co.jp/t/2012/1112/553788.htm>

Akses 2012-1-1

<https://30kekkon.com/answer/jukunennrikon-koukai.html>

2017/08/30

https://detail.chiebukuro.yahoo.co.jp/qa/question_detail/q13185119513

akses 01-23-2018

[\(https://mikle.jp/threadres/115358/\)](https://mikle.jp/threadres/115358/)

07/03/28 00:54

<https://www.theguardian.com/news/2007/oct/18/internationalnews>

Akses 18-10-2007/ 17.31

https://detail.chiebukuro.yahoo.co.jp/qa/question_detail/q1469859339

Akses 2011/8/2621:55:07

https://lsa.umich.edu/women/people/core-faculty/allison-alexey/_jcr_content/file.res/AlexyCV.pdf

Akses 2007

<https://onayamifree.com/threadres/2678556/>

Akses 18/07/18

<https://www.fukuoka-ricon-law.jp/296/296006/>

<https://www.sodan-lp.jp/board/money/detail/1370591>

Akses 2017.08.27

https://www.nikkei.com/article/DGXLASDG26HGD_X20C17A7000000/

<https://yourbengo.jp/rikon/23/>

<https://syukatsulabo.jp/2018>

<http://www.garbagenews.net/archives/1892492.html>

<https://ricon-pro.com/columns/187/>

<https://japantoday.com/category/features/kuchikomi/more-senior-partners-uncoupling>

Akses 2013-3-4

https://books.google.co.id/books?id=yB8cBQAAQBAJ&pg=PT80&lpg=PT80&dq=y+amashita+katsutoshi++divorcejapanese+stye+pdf&source=bl&ots=fSVgT8KXDq&sig=wokD4SekWubYoeMM4OGwwV-Mbxk&hl=ban&sa=X&ved=2ahUKewje3eaM_bzcAhXZR30KHRL_A2IQ6AEwA_HoECAAQAQ

DAFTAR RIWAYAT HIDUP

Nama : Retno Ningsih
Tempat, Tanggal Lahir : Purworejo, 17 Maret 1991
Alamat Asal : Jl. Pesantren Timur RT
001 RW 005, Desa Dlangu,
Kecamatan Butuh,
Kabupaten Purworejo
Alamat Domisili : Jl. Rawa Semut RT. 09 RW. 11 No. 17B,
Kelurahan Margahayu, Kecamatan Bekasi Timur
Kota Bekasi
E-mail : retnoningsih173@gmail.com
Ayah : Tugiyono
Ibu : Janiyah



Pendidikan Formal

TK RA Mekar Subur Dlangu : 1997
MI Imam Puro Dlangu : 2003
SMP Negeri 14 Purworejo : 2006
SMK Pancasila 2 Kutoarjo : 2009
STBA JIA Bekasi : 2018

Pengalaman Kerja

P.T. Muramoto Elektronika Indonesia : 2011- 2012
P.T. Mattel Indonesia : 2012- 2014
KUMON : 2015
P.T. Acommerce Solusi Lestari : 2017